

令和元年度

中英研會報

第78号

東京都中学校英語教育研究会

令和元年度 ― 行 動 目 標 ―

グローバル化に対応した教育環境づくりを進めるため、国は小・中・高等学校を通じた英語教育全体の抜本的充実を図ろうとしており、社会全体も大きな期待を寄せている。平成29年3月に告示された学習指導要領においては、小学校第3学年から外国語活動を、第5学年から外国語科を導入することになり、それに伴い、中学校の外国語科も大きな変革が求められることになった。東京都中学校英語教育研究会は、その期待と変革に対応するため、次のような行動目標のもと中学校英語教育のなお一層の充実・発展を目指して活動する。

1. 組織の充実とその活性化を図る。
 - (1) 都中英研の活動がより充実したものとなるよう、組織全体の見直しを継続的に行う。
 - (2) 都中英研の各種事業により多くの教員や学校が参画できるようにし、その活性化を図る。
 - (3) 都中英研の諸活動が一層活発に進められるよう、各地区の幹事と連携を密にする。
2. 人材の発掘とその育成に努める。
 - (1) 有能な人材を発掘し、リーダー層の育成を図るとともに、英語教員全体の資質向上を推進する。
 - (2) 英語教員の資質向上を目指した研修事業を積極的に企画し遂行する。
 - (3) 英語教員の育成と研修の充実を目的に、授業研究を一層活発に推進できるよう支援体制を強化する。
3. 英語教育に関わる関係機関や関係団体との連携を強化する。
 - (1) 第32回オリンピック競技大会（2020／東京）、東京2020パラリンピック競技大会の開催を受け、東京都教育委員会等とも連携しながら、東京方式少人数・習熟度別指導の充実を図り、英語が使える生徒を育てる。
 - (2) 「東京都小学校外国語（英語）教育研究会」、「東京都高等学校英語教育研究会」との情報交換を密に行い、小・中・高等学校の学びを円滑に接続できるようにする。
4. 調査・研究の充実を図る。
 - (1) 学習指導要領の趣旨を踏まえながら、組織的な調査・研究を推進する。
 - (2) 英語教育に関わる基礎的事項等についての調査活動を行う。
 - (3) 英語教育に関わる今日的かつ実践的な課題についての研究活動を行う。特に小学校における外国語活動、外国語科との関連に留意した研究を充実する。
 - (4) 生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための取組、英語「話すこと」の評価に関する取組についての調査・研究を推進する。
5. 英語教育に関わる各種情報の収集・発信を進める。
 - (1) これまでの広報媒体を活用して、各種情報の発信を行う。
 - (2) HP、SNS等の活用を図り、それを通して各種情報の受信・発信を行う。
 - (3) 各地区との連携を進め、情報の共有化にとどまらず相互協力による事業を推進する。

目 次

●平成から令和へ 時代の先端をいく	刀根 武史	1
●中学校英語科教員への期待	石鍋 浩	2
●令和元年度 東京都教育委員会の取組 「生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための指導資料 ～実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うために～」	窪田 香	4
●東京都教職員研修センターにおける外国語（英語）に関する研修について	森田 剛 中谷 愛	6
実践研究		
(1) 平成31年度（2019年度）研究開発委員会報告 概要 互いの考えや気持ちを伝え合うことのできる生徒の育成 ～目的や場面、状況等を重視した言語活動を通して～	東京都教育委員会	8
(2) 平成31年度（2019年度）東京都教育研究員 中学校外国語部会報告 概要 「話すこと」の活動を通して「書くこと」の力を高める指導の工夫 ～自分の考えや気持ちをまとまりのある文章で表現できる生徒の育成を目指して～	東京都教育委員会	12
(3) 英語学芸大会 Playの部 第1位 英語劇を通しての人間教育	田中 健	16
(4) 英語学芸大会 Speechの部 第1位 自信をもって強い思いを伝えるために	南 昭仁	17
(5) 都中英研・研究部公開授業を終えて	前川 卓哉	18
(6) 東京教師道場で得たこと	椿 恭子	19
(7) 関東甲信地区ブロック東京大会 主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度の育成 ～新学習指導要領全面実施に向けて～	東京都中学校英語教育研究会	20
●各部報告		
・総務部報告	遠藤 哲也	22
・事業部報告	横山 達也	23
・調査部報告	大森 博	24
・研究部報告	原田 博子	25
・プロジェクト・チーム部報告	斉藤 節子	26
・出版部報告	今本由美子	26
●研究大会報告		
・第59回 大都市公立中学校英語教育研究会連絡協議会（京都市大会）	佐藤ひろみ	27
・全英連報告 第69回 全国英語教育研究団体連合会総会（三重大会）	難波 浩明	28
・第43回 関東甲信地区英語教育研究協議会（東京大会）	遠藤 哲也	29
●各地区の活動状況		30
●中英研事業報告		56
●中英研会則		58
●役員一覧		60
●あとがき		64

平成から令和へ 時代の先端をいく

会 長 刀 根 武 史
(東京都中学校英語教育研究会)

元号が平成から令和となり、新たな時代の幕開けを迎えた今年、世の中の変化のスピードはますます加速しているのではないかと感じる今日この頃です。日本の英語教育もまた新たな時代へと歩みを進めています。ICT機器が当たり前のように授業に入り、デジタル教科書を使ったりコンピュータソフトを使ったりした授業、AI搭載のロボットを活用した授業などが行われています。また、4月に行われました文部科学省の「全国学力・学習状況調査」における英語の調査では、コンピュータにあらかじめインストールしたソフトウェアを使った「話すこと」の調査が行われました。さらに、都立高等学校の入試における英語のスピーキングテストの導入に向けた取り組みもプレテストが行われ、着実に準備が進められています。このような英語教育における様々な新しい流れについて、私たちは高い意識をもって、「時代の先端をいく」という強い思いで臨まなければならないと思っています。

さて、平成29年3月に告示された中学校学習指導要領の全面実施まであと1年ほどとなりました。各学校では着々と準備を進められていることと思います。

この春からは、小学校学習指導要領の全面実施により、3、4年生でそれぞれ年35時間の外国語活動と5、6年生でそれぞれ年70時間の英語科の授業が始まります。これからは小学校において210時間の外国語活動及び英語科の授業を受けた児童を中学校は受け入れることとなります。それだけに小中の接続が大切になり、改めて新学習指導要領で示されていることについて、私たちは理解を深めなければならないと思っています。

本年度、東京都中学校英語教育研究会は、11月15日（金）に第43回関東甲信地区中学校英語教育研究協議会東京大会を主催いたしました。主題を「主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度の育成～新学習指導要領全面実施に向けて～」とし、新しい時代に即した英語教育についての情報を発信いたしました。当日は約600人近い皆様にお集まりいただき盛会となりましたこと、本当にありがとうございました。東京での開催は9年ぶりではありましたが、多くの皆様にお助けいただく中で、ご参加をいただきました多くの皆様から大変勉強になったとお言葉を頂戴し、事務局一同大変嬉しく思いました。この紙面をお借りいたしまして、東京大会開催にご尽力をいただきました多くの皆様方に改めて感謝を申し上げますとともに、引き続き様々な機会を通して新学習指導要領に関する情報の提供、発信に努めてまいりたいと思っています。

結びに、英語教育改革が今までに経験したことのない規模とスピードで進んでいる中で、今、私たちは新しい時代への準備を着実に進めていかななくてはなりません。そのような中で、私たち東京都中学校英語教育研究会は、さらに東京都の英語教育の充実に向けて日々歩んでまいり所存です。

改めまして東京都の英語科の先生方へお願いです。ぜひ、東京都中学校英語教育研究会の各部の一員になって、一緒に学んでいきましょう。そして、これからの日本の英語教育、東京都で英語を学んでいる子供たちのために、大いに力を発揮していきましょう。

新たな英語教育の時代の到来に、一緒に備えてまいりましょう。「平成から令和へ 時代の先端をいく」です。

中学校英語科教員への期待

石鍋 浩

明海大学教職課程センター教授（前東京都中学校英語教育研究会会長）

1. 小学校での英語学習時間

第1問：この4月に入学する中学1年生は小学校で何時間英語を学習してきましたか？

小学校5、6年で週1回外国語活動をやってきたのだから「70時間」と答えた方がいるのではないのでしょうか。一般的な正解は「100時間」です。（ただし自治体によって違いがあります。）小学校においては、平成30年度・31年度（令和元年度）は新学習指導要領への移行期間であり、小学校3、4年生でそれぞれ15時間、5、6年生でそれぞれ50時間を外国語活動の標準時数としています。つまり、令和2年度の中学1年生は5・6年生でそれぞれ50時間ずつ、合計100時間、英語の学習をしてきたのです。

第2問：令和3年度以降の中学1年生は小学校で何時間英語を学習してくるでしょう？

実は年度を追うごとに増加していくのです。下の表を見てください。平成30年度以降の小学校の英語の学習時間を表したものです。（ただし、自治体によってはこれより多く英語学習をしています。）

年度	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5	令和6
3年生	15	15	35	35	35	35	35
4年生	15	15	35	35	35	35	35
5年生	50	50	70	70	70	70	70
6年生	50	50	70	70	70	70	70
中学1年生の小学校での学習時間	70	85	100	135	170	190	210

この表からわかるとおり、小学校においては学習時間が毎年増加し、最終的には210時間まで増加します。この状況から特に中学校入学時の英語の授業改善は必須なはずです。皆さんの学校ではどのような授業改善、指導の工夫をしていますか？今一度、校内で、区市町村内で確認してください。この状況を英語科教員だけでなく、管理職をはじめとする他教科の教員にも十分に理解してもらえるように情報発信することも重要です。

2. 小学校での学習内容の確認

小学校の英語教育が大きく変わっているこの時期だからこそ、小学校で使用されている文部科学省の「Let's Try!」「We Can!」をデジタル教材とあわせてしっかりと見てほしいと思います。学校をまわっていると、小学校で使用されている教材、指導内容、指導方法を理解していない中学校の先生方に出会うことも決して珍しくありません。

また、この4月から小学校5、6年では外国語（英語）が教科となり、「教科書」が使われます。今から教科書に目を通し中学校の指導改善に生かすことも重要なポイントです。

第3問：皆さんの地域の小学校で4月から使用される教科書は何ですか？

すぐにでも確認して教科書の中身を見てください。

3. 小中接続の課題解決

学習指導要領改訂前に中央教育審議会教育課程部会「外国語ワーキンググループ」がまとめた小中接続の課題は次の通りです。

- ①音声から文字への円滑な接続
- ②小学校の学びとの連続性
- ③気付きから定着へ
- ④様々な言語活動の工夫

第4問：皆さんの学校・地域では①～④の課題は解決されていますか？

課題解決が不十分な点については、校内研究、教科部会、小中連携での協議会等の機会はもちろんのこと、授業準備等の日常的な取組を通して、学校や地域の実態に即した具体的な解決策を見出してほしいものです。

4. 実践してほしいこと

小中の接続に関わってぜひ実践してほしいことを私なりに考えました。まだのところがあれば、参考にしてください。

- 小学校で使用されている「Let's Try!」「We Can!」を見る。
- 各自治体が採択した新教科書を見る。
- 小学校の外国語科・外国語活動の授業を見る。
- 小中学校の教員が、お互いの授業を参観し、協議する。
- 中学校の教員が、小学校で出前授業をする。
- 小中学校の教員が、お互いの学校でティーム・ティーチングをする。
- 小中学校の教員が、合同で学習指導案を作成する。
- 小中学校の教員が、合同でワークショップを行う。

5. 中学校での対応に期待

第5問：中学校の教科書はいつ変わりますか？

各自治体ではこの夏に、令和3年度から中学校で使用する教科書採択が行われます。今から新教科書のことも念頭に置いておくことが必要です。なぜなら、教科書の内容が大きく変わるからです。理由の一つとして中学校で扱われる語彙数があります。新学習指導要領の下では、中学校で1700～1800語が扱われます。小学校の600語～700語と合わせると中学校卒業までに2500語が扱われることになるのです。また、小学校でWh-Questionや過去形等を学んでくると考えると、中学校の新教科書が大きく変わることは容易に想像できるはずです。

新聞やTVのニュースでは中学校外国語（英語）教育はあまり取り上げられていませんが、実は中学校が対応しなければならないことは、小学校での英語教育改革への対応、中学校新教科書への対応、中学校における指導改善（英語で授業を行う）等、非常に多くあります。学校現場が多忙であることは承知しています。しかし、日本の教育史上最も大きな英語教育改革の時期である今、中学校の英語教員にしかできないこと、中学校の英語教員に期待されることがたくさんあるのです。皆さんが「やり甲斐」をもって中学校の英語教育、日本の英語教育を大きく発展させてくれることを心から期待します。

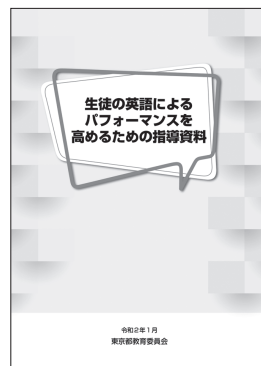
「生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための指導資料

～実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うために～

新学習指導要領全面実施に向けて各校で行っていただきたいこと

東京都教育庁指導部義務教育指導課 統括指導主事 窪田 香

本課においては、外国語科の先生方全員に受講いただいた「生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための研修」（平成29年度～令和元年度）や「生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための指導資料DVD」（平成29年度）を通じて、新学習指導要領の主旨や指導・評価の改善について発信してきました。本年度は表題の指導資料冊子を作成し、研修で発信してきた内容やこれまでに出版されている資料等を収録した付属のCD-Rとともに、中学校外国語科の先生方全員と、小学校に各校1冊ずつ配布しました。



本稿では、次年度の新学習指導要領全面実施に向けた移行期間最終年を迎えるに当たり、本指導資料に収録した内容の活用も含め、各校で新学習指導要領全面実施に向けた準備として取り組んでいただきたい内容についてお伝えいたします。

※指導資料の収録内容は冊子とCD-Rに分けてゴシック体で示しています。

(1) 新学習指導要領のポイントを把握する。

まず、改めて **CD-R**「**中学校学習指導要領解説 外国語編（平成29年7月）**」を読んでもいただきたいと思います。時間がなければ、以下だけでも行ってください。

① 「言語活動」と入れて、テキスト検索し、該当部分を読んでみる。

新学習指導要領のキーワード、「言語活動」についてイメージをつかむことができます。「言語活動」については **冊子** P3「言語活動とは」においても解説していますので、ぜひ御一読ください。

② 巻末の表（付録6、7、8）を印刷し、比較してみる。

付録6「外国語活動・外国語の目標」の学校段階別一覧表、付録7「『外国語の言語材料』の学校段階別一覧表」、付録8「『外国語活動・外国語の言語活動の例』の学校段階別一覧表」を見ると、小・中学校の指導内容を俯瞰できます。

冊子 P66～71には新学習指導要領に対応した指導案や指導略案を載せています。研究授業等の際に、本フォーマットを活用し授業を構想してみると、現行の学習指導要領との違いが見えてくるとと思います。（データについてはCD-Rに収録）

また、文部科学省のホームページには、新学習指導要領における外国語教育のポイントがわかる動画等も多数用意されています。ぜひこちらも御視聴ください。

文部科学省HP https://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/index.htm

(2) 文部科学省 新学習指導要領対応 中学校外国語教材「Bridge」の活用

新学習指導要領に追加された内容を、移行期間中に学習することができるようにした生徒用資料が配布されます。ぜひ計画的に活用してください。

(3) 小・中連携について考える。

①小学校高学年で使用される教科書について把握する。

これまで、小学校第5・6学年の指導には文部科学省から各学校に配布されている「We Can!」が活用されてきましたが、次年度からは教科書による指導に変わります。（第3・4学年については引き続き、文部科学省「Let's Try!」を活用していきます。）区市町村の教育研究会等で、小学校の教科書をテーマとして中学校の指導との関連性を分析するなどしてはどうでしょうか。

東京都教育委員会HP 令和2～5年度使用教科書採択地区別の採択結果

https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/textbook/adoption_policy_other/adoption_result/results_2020_public.html

②文字の扱いについて正しく理解する。

小学校で新たに指導内容となった文字を書く指導においては、十分に音声で慣れ親しんだものについて、4線の上に書くルールを踏まえながら、「なぞる」、「写す」、「選んで書く」などを行います。生徒は慣れ親しんだ結果、綴れるようになっていたということはあるとしても、単語を綴れるようにするための指導や英作文ができるようになるための指導を受けてきた訳ではありません。この点を踏まえた、特に入門期の中学校の文字指導を考えていくことが必要です。

③伝え合うことを大切にしたい指導を引き継ぐ。

小学校の指導では、場面に即して児童にやり取りさせることを中心とした指導が行われています。またSmall Talkについても、小学校で取り組まれるようになりました。下記のような内容を参考に、伝え合う楽しさを継承した中学校の外国語指導を考えていただければと思います。

CD-R「移行期間における指導資料（小中接続・帯活動）」

冊子・CD-R「帯活動の指導の工夫（Q&A活動、チャット活動）」

(4) 評価について考える。

移行期間中の評価は現行の学習指導要領に基づきます。現在出ている国の評価に関する資料（案）は、特に読んでいただきたい点を**冊子**P22～28に、また全文は、**CD-R**「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料（小学校、中学校）（案）」（国立教育政策研究所 令和元年11月）」に収録しています。

最終案については文部科学省 国立教育政策研究所のホームページに掲載が予定されていますので、趣旨を十分に理解した上で令和3年度からの中学校での評価を御検討ください。

国立教育政策研究HP <https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryoku.html>

義務教育指導課では、国と区市町村都教育委員会・学校との橋渡しができるように、今後も新たな事業を構築して参ります。次年度も都中英研の先生方、今この冊子を手にとっている先生方とともに、東京都の外国語教育を充実させていきたいと思っています。

東京都教職員研修センターにおける 外国語（英語）に関する研修について

東京都教職員研修センター 研修部授業力向上課 統括指導主事 森田 剛
東京都教職員研修センター 研修部専門教育向上課 統括指導主事 中谷 愛

東京都教職員研修センターでは、教員の専門性を高める研修として、リーダー養成研修と教科等・教育課題研修の二本立てで研修を実施しています。都内の公立中学校（都立中学校、中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校を含む）の英語科の教員を対象に、令和元年度に計画・実施した研修を紹介します。

1 東京教師道場（リーダー養成研修）

東京都公立学校の児童・生徒の学力向上を図るため、2年間にわたる授業研究等を通して、教員の授業力を一層高めるとともに、他の教員を指導する資質・能力を育成していくことを目的とした研修です。2年間の第1期から第3期までの三つの段階に分け、年間10回の授業研究や夏季集中協議を通して研修を進めます。

（1）授業研究

授業研究では、授業観察と協議を行います。協議では、進行、発表等の役割分担を計画的に行い、「授業力の6要素」を基に付箋紙を活用して、協議を焦点化します。

（2）夏季集中協議

同じ校種の部員・リーダーが集まる「班」と校種等を越えた部員・リーダーが集まる「組」での研修を実施し、模擬授業等を通して、教科等の系統性を踏まえた授業改善の具体策を考え、理解を深めていきます。

（3）リーダー演習

第3期に、部員がリーダー役を担い、協議の司会や授業者への指導・助言を行い、授業づくりの基本的な考え方や学習指導案の作成・改善、評価等について、他の教員に指導・助言できる資質・能力を培っていきます。

2 専門性向上研修（教科等・教育課題研修）

（1）大学等と連携した指導力向上研修

①英語ⅠB「授業づくりの基礎・基本」

中学校学習指導要領の目標及び内容等を理解し、基本的な授業展開や指導方法、学習評価について学びます。

第1・2回講師：文部科学省 教科調査官 山田 誠志 先生

②外国語活動Ⅱ「教科化に向けた小学校外国語教育の在り方」

小学校中学年から高学年までの系統的な指導の在り方について学びます。

第1回講師：上智大学 教授 吉田 研作 先生

③英語ⅡA「コミュニケーションを図る基礎を育成する指導の充実」

小学校から中学校までの系統的な指導の在り方について学びます。

第1回講師：上智大学 准教授 狩野 晶子 先生

④英語ⅡB「コミュニケーションを図る資質・能力を育成する指導の充実」

五つの領域の言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を育成する指導方法や授業づくりについて学び、中学校英語の指導力の向上を図ります。

第1回講師：東京学芸大学 教授 馬場 哲生 先生

⑤英語ⅡC「生徒の英語力向上を図る指導の在り方」

中学校における英語教育の今日的な課題とこれからの指導の在り方について理解し、小学校や高等学校との円滑な接続を図る指導について学び、中学校英語の指導力の向上を図ります。

第1回講師：昭和女子大学 教授 金子 朝子 先生

⑥英語ⅢA「ALT等を活用した授業のねらいと実践」

中学校における効果的なALT等の活用や授業の工夫などについて学び、英語教育を推進する力を高めます。

第1回講師：東京学芸大学 准教授 白倉 美里 先生

⑦英語ⅢB「対話を継続・発展させる力を育成する指導の充実」

「話すこと（やり取り）」の領域において設定する目標の実現を目指した指導を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を育成する指導法を学び、英語教育を推進する力を高めます。

第1回講師：上智大学 教授 和泉 伸一 先生

(2) 外部委託者所属の外国人講師等による英語力向上研修

①「英語力向上集中講座」(全6回)

外国人講師等との英語による会話等を通して、「話す力」を高めます。

②「英語でプレゼン実践講座」(全6回)

外国人講師等との英語による会話等を通して、発表に必要な英語力を高めます。

③「英検(準1級・1級)取得支援講座」(全7回)

英語検定(準1級・1級)を取得することを目標として、実践的な英語力を高めます。

④「TOEIC(730点・860点)突破支援講座」(全5回)

TOEIC L&R(730点以上・860点以上)を取得することを目標として、「聞く力」「読む力」を高めます。

【英語力向上研修チラシ】

3 令和2年度の研修について

令和2年度の研修内容は、東京都教職員研修センターホームページ「令和2年度研修案内」をご覧ください。



専門教育向上課キャラクター「ワコジョ」

互いの考えや気持ちを伝え合うことのできる生徒の育成 ～目的や場面、状況等を重視した言語活動を通して～

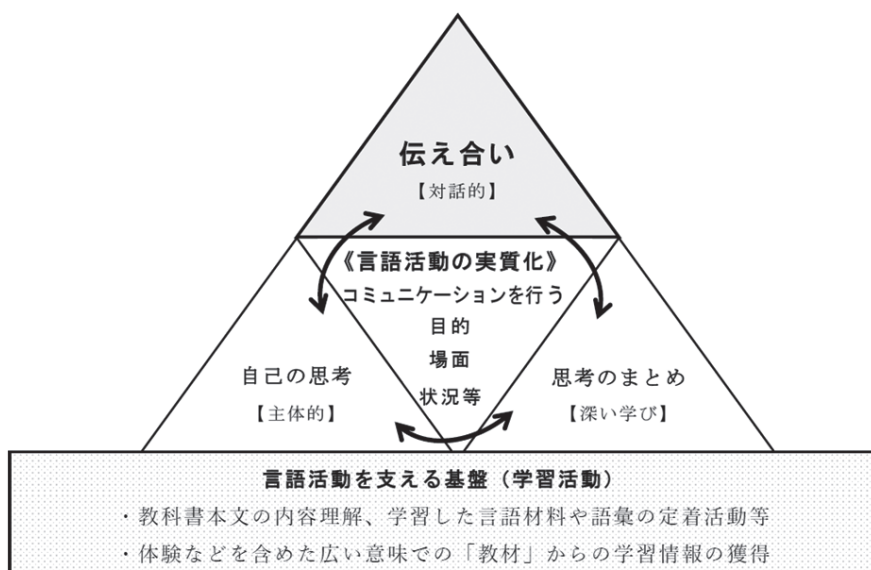
東京都教育庁指導部義務教育指導課 統括指導主事 窪田 香

I 研究の目的

中学校学習指導要領解説外国語編（平成29年7月）では、「外国語を使って何ができるようになるか」を明確にするという観点から改善・充実が図られている。生徒が学ぶ過程の中で、知識・技能を実際のコミュニケーションにおいて活用し、思考・判断・表現することを繰り返すことを通じて知識・技能を確かなものとし、学習内容の理解を深めるなど、資質・能力が相互に関係し合いながら外国語を身に付けていく指導が求められている。

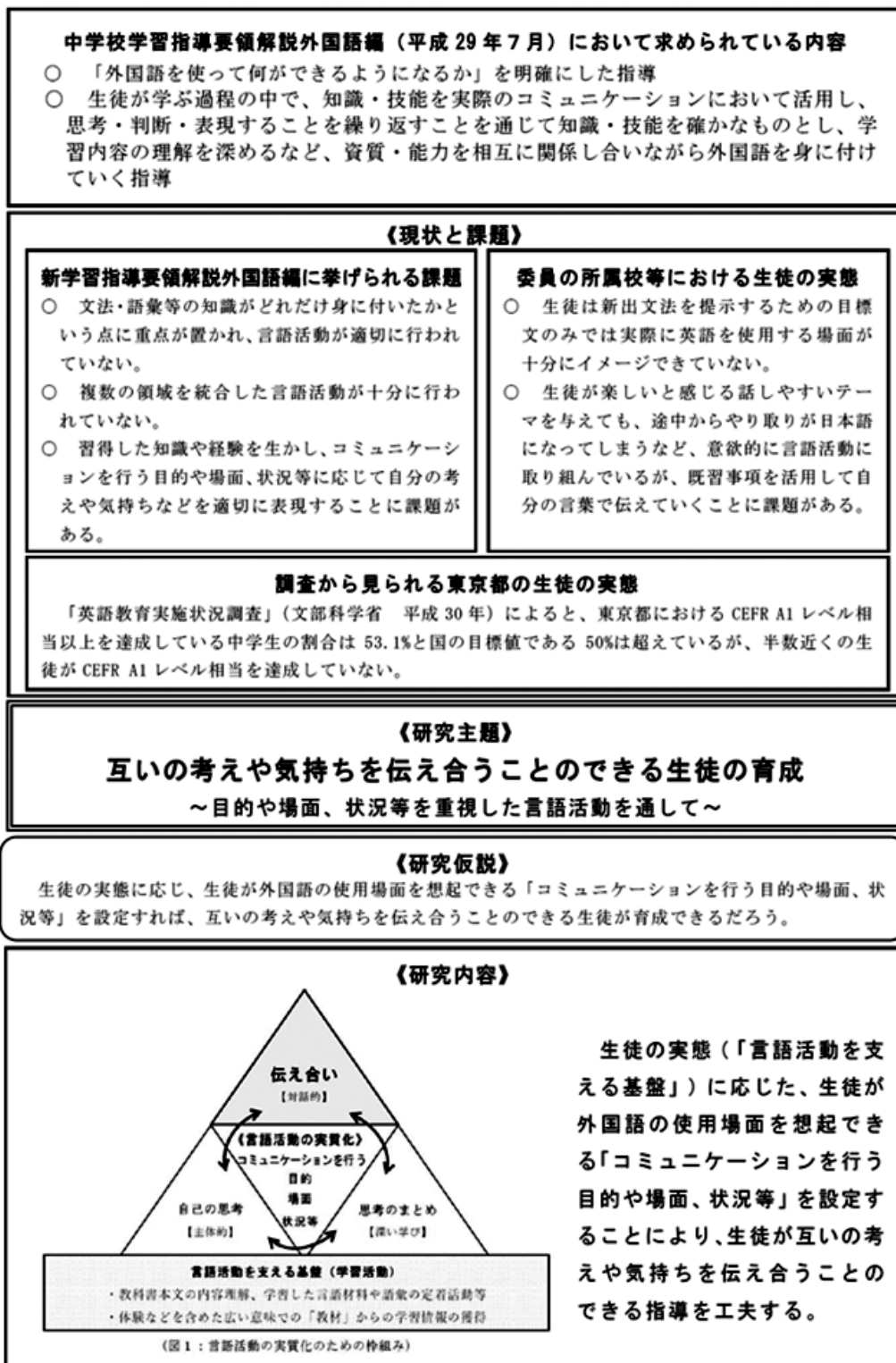
これまで、文法・語彙等の知識を身に付けるための指導は盛んに行われてきており、実践例は豊富である。しかし、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて自分の考えや気持ちなどを適切に表現させる指導となると実践例は少ない。

そこで、図1「言語活動の実質化のための枠組み」に示したように、本研究では教科書本文の内容理解や学習した言語材料・語彙の定着活動（文法・語彙等の知識を身に付けるための指導）、体験などを含めた広い意味での「教材」からの学習情報の獲得を「言語活動を支える基盤」として整理した。そして、この「言語活動を支える基盤」を踏まえ、教科書本文で「聞いたり」「読んだり」して学んだ内容や、学校の生活、住んでいる地域での生徒の体験等を生かして、生徒が外国語の使用場面を想起できる「コミュニケーションを行う目的や場面、状況等」を設定し、生徒に繰り返し思考・判断・表現させることで互いの考えや気持ちを伝え合う（「話したり」「書いたり」する）ことのできる生徒を育成していくこととした。



（図1：言語活動の実質化のための枠組み）

II 研究構想図



Ⅲ 検証授業の実施

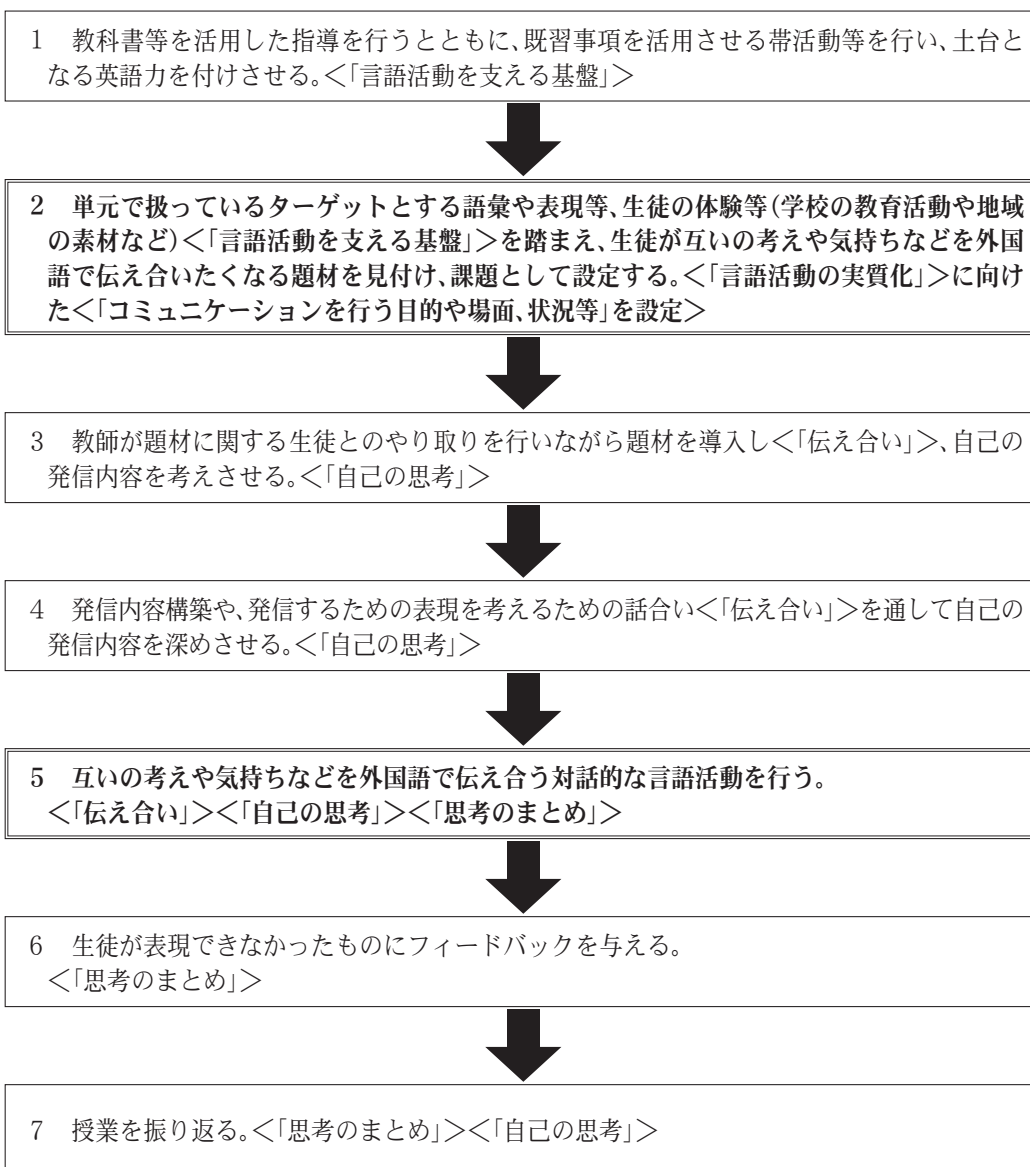
基礎研究の結果を踏まえ、4回の検証授業を行った。

授業1	第2学年	地域の素材(東京都)「花火」(<i>Welcome to Tokyo Basic Topic 4 Fireworks</i>)を活用した事例
授業2	第3学年	教科書で扱った内容を活用し、外国文化の理解を深めた事例
授業3	第1学年	地域の素材「新撰組」を活用した事例
授業4	第2学年	教科書で扱った内容と他教科等の学び(職場体験)を活用した事例

その際に、以下(「検証授業の流れ」)のように「図1:言語活動の実質化のための枠組み」を授業へ落とし込み、共通した視点で、授業を実施した。

検証授業の流れ

※< >内は、「図1:言語活動の実質化のための枠組み」との関連



Ⅳ 成果と課題

(1) 成果

ア 「言語活動を支える基盤」を大切にした授業展開

教科書本文の内容理解、学習した言語材料や語彙の定着活動等や生徒の地域・学校での体験等を、「言語活動を支える基盤」として役立てたことは、生徒が発信する内容をもつ、発信する手段をもつという意味で効果的だった。

教科書本文で「聞いたり」「読んだり」して学んだ内容や、学校の生活、住んでいる地域での生徒の体験等は生徒が共通して話せる内容であり、生徒は話す話題に困らず、意欲的に伝え合うことができていた。また、教科書本文の内容理解、学習した言語材料や語彙の定着活動等を繰り返し行ったことも効果的だった。日頃から既習事項や教科書本文の内容に繰り返し触れさせていく活動を取り入れておくことが大切であることが分かった。こうして積み重ねてきた内容も活用して、自分の思いを自分の言葉で発信しようとする生徒が多く見られた。

イ 生徒の学習への興味・関心、英語で発信することへの意欲

教師が実社会とのつながりある「コミュニケーションを行う目的や場面、状況等」を設定することを通して、疑似コミュニケーションではなく、生徒が伝える相手を意識しながら、生徒が内容を考え、発信するという自然なコミュニケーションにすることができた。

(2) 課題

ア 目標の明確化

外国語科として授業を通し、身に付けさせたい力に沿って、内容と言語のバランスをとっていくことが大切である。

イ 日本語の使用

与える課題が生徒にとって、興味深い、意見を交換したくなるようなテーマになるほど、生徒はより簡単に思いの伝えられる日本語を使いがちである。生徒が自分で表現を選び、発信することは尊重しつつ、生徒が発信したくなりそうな内容を予想し、既習表現を用いてどのように表現できるか教師が考えておき、日本語使用が見られた際には提示を行ったりするなど、英語によるコミュニケーションとなるよう手助けしていくことが必要である。

ウ 教材研究にかかる時間とカリキュラム・マネジメント

本研究では、教材研究に非常に多くの時間を要した。また前述のように、生徒の発信したい内容が生徒の言語習得に追いついていないために、日本語を使用するという課題もあった。そこで、外国語の授業の中で学んだ内容を活用して、総合的な学習の時間や道徳授業など他の教育活動を充実させていく視点もあるのではないかという意見が、検証授業後の協議の中では挙げられた。生徒の学習を最大化できるようにカリキュラム・マネジメントしていくことが、学校の教育活動全体の質の向上を図る上で必要であると考えた。

「話すこと」の活動を通して「書くこと」の力を高める指導の工夫 ～自分の考えや気持ちをまとまりのある文章で表現できる生徒の育成を目指して～

東京都教育庁指導部義務教育指導課 指導主事 早川 裕之

I 研究の概要

本研究では、「平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査報告書」（文部科学省 令和元年7月）の記述や研究員の所属校の生徒の実態から、「書くこと」の課題を「(1) 既習事項を用いて正確に書くこと」、「(2) 発信する内容をもつこと」、「(3) 『まとまりのある文章』を書くこと」の三つに整理し、「既習事項を活用して、自分の考えや気持ちをまとまりのある文章で表現することのできる生徒」の育成を目指して、指導方法の工夫・改善を図った。この際、中学校学習指導要領解説外国語編（平成29年7月）における「まとまりのある文章」の定義（文と文の順序や相互の関連に注意を払い、全体として一貫性のある文章）等を参考に、本研究においては、生徒がテーマに沿って「全体として一貫性のある3文以上の英文」を書くことができるようになることを目指し、取組の方向性を定めた。

II 取組の方向性

「話すこと」の活動を通して生徒の「書くこと」の力を高め、上記「書くこと」の課題(1)～(3)を解決することができるよう、本研究においては「話すこと」の取組として「Q&A活動」を、「書くこと」の取組として独自の「英作文シート」を用いた指導を行った。それぞれの取組のねらいは以下のとおりである。

(1) 「Q&A活動」（「書くこと」の課題(1)及び(2)の解決を図る取組）のねらい

○課題「(1) 既習事項を用いて正確に書くこと」の解決に向けて

「Q&A活動」のワークシートに質問と応答の一覧を記載するなどして生徒にモデルとなる英文を繰り返しインプットするとともに、教師が「Q&A活動」後のフィードバックを工夫することで、生徒が表現する英文の正確さを高めるようにした。

○課題「(2) 発信する内容をもつこと」の解決に向けて

様々な英文（質問と応答）を生徒にモデルとして示したり、それらの英文を用いた生徒同士のやり取りを通じてお互いの考えに触れさせたりすることで、テーマに関する考えを広げさせ、生徒に発信する内容（書きたい内容）をもたせるようにした。

(2) 「英作文シート」を用いた指導（「書くこと」の課題(1)及び(3)の解決を図る取組）のねらい

○課題「(1) 既習事項を用いて正確に書くこと」の解決に向けて

生徒が「英作文シート」に記録した英文に対して、生徒同士のフィードバック、教師から生徒へのフィードバックを工夫することで、生徒が書く英文の正確さを高めるようにした。

○課題「(3) 『まとまりのある文章』を書くこと」の解決に向けて

「英作文シート」に、「テーマに対するメインアイデア」、「理由や根拠、具体」、「自分の気持ちや考え」など、文章構成の特徴を意識させる指示や例示を記載し、生徒

にそれらを踏まえて英文を書かせることで、生徒が「全体として一貫性のある3文以上の英文」を書けるようにした。

Ⅲ 「Q&A活動」及び「英作文シート」を用いた指導の工夫

授業実践を通じて行った「Q&A活動」と「英作文シート」を用いた指導の工夫は次のとおりである。

(1) 「Q&A活動」の工夫

① 「Q&A活動」で生徒に示す様々な表現の工夫

「Q&A活動」で生徒に示す様々な表現（質問と応答）は、生徒がテーマについて一貫した内容を発信する際の材料となるよう、Q 1～Q 6には全てテーマに関連した英文を示し、生徒が「書くこと」の活動で書く際にも活用できるようにした。具体的な質問と応答の例（第2学年の場合）は、以下のとおりである。

学年	テーマ ※()内は扱っている主な文法事項	No.	Questions ※下線部は生徒自身が考えて質問する部分。また、生徒の習熟の程度に応じて、()内の質問をすることもできる。	Answers ※下線部は生徒自身が考えて答える部分
第2学年	将来の夢 (to不定詞)	Q1	What's your favorite subject?	It's <u>math</u> . I like <u>numbers</u> .
		Q2	Do you like to <u>use the Internet</u> in your free time? (What do you like to do in your free time?)	Yes, I do. / No, I don't. (I like to <u>read comics</u> .)
		Q3	Are you interested in <u>computers</u> ? (What are you interested in?)	Yes, I am. / No, I'm not. (I'm interested in <u>sports</u> .)
		Q4	Are you good at <u>using computers</u> ? (What are you good at?)	Yes, I am. / No, I'm not. (I'm good at <u>drawing pictures</u> .)
		Q5	Do you want to be a <u>computer programmer</u> ? (What do you want to be in the future?)	Yes, I do. / No, I don't. (I want to be a <u>game creator</u> .)
		Q6	What do you want to do in the future?	I want to travel around the world.

このような質問と応答を用いた「Q&A活動」において、生徒が実際に話した英文等を「英作文シート」に記録させ、生徒が実際に「全体として一貫性のある3文以上の英文」を書く際に活用できるようにした。

② 「Q&A活動」後のフィードバックの工夫

「Q&A活動」を実施した後には、それぞれの生徒がペアでやり取りをした内容や、多くの生徒に共通して見られた誤り、やり取りの中で生徒が「言いたかったけれど言えなかった表現」などについて、学級全体で共有するようなフィードバックを行うこととした。

(2) 「英作文シート」を用いた指導の工夫

① 「英作文シート」の構成

本研究で作成した「英作文シート」は、生徒が「①『Q&A活動』で発話した英文等を記録する部分 (STEP 1)」、「②『Q&A活動』で表現できなかった内容等を記録する部分 (IDEA BOX)」、「③文章構成を意識して書く部分 (STEP 2, STEP 3)」の三つで構成されているワークシートである（次ページ参照）。

英作文シート

今回のテーマ

将来の夢について語ろう

年 組 番 氏名

テーマ
将来の夢について語ろう

場面
自分の将来の夢(してみたいこと)について
教室でスピーチする

伝える相手
ALTの先生、クラスの友達

STEP 1

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤

Q & A 活動で実際に話した英文等を記録させる。ここに記録した英文を用いて、STEP 2に「まとまりのある文章」を書かせる。

IDEA BOX 伝えそうな表現や「言いたかったけど言えなかった表現」

相手が使ったよい表現や、自分が「言いたかったけれど言えなかった表現」を記録させる。言えなかった表現は家庭学習で調べてくるなど指導し、表現できる内容を広げさせる。

STEP 2 テーマに対するメインアイデア

「全体として一貫性のある3文以上の英文」を書けるように、文章構成を意識させながら記入させる。

理由や根拠、具体

自分の気持ちや考え

STEP 3 Title

STEP 2を基に記入させる。

年 組 番 氏名

テーマに対するメインアイデア

I want to be a doctor.

例文を入れておき、習熟の程度が遅い生徒には、記載された例文を参考にするよう伝える。

理由や根拠、具体

I want to help other people.

自分の気持ちや考え

I will study hard to be a doctor.

FINAL STEP Title

年 組 番 氏名

② 「英作文シート」における工夫

- ・「Q&A 活動」を通じて生徒がもつことのできた「発信する内容（自分が発話した内容や相手のよい発言等）」を記録させることで、「全体として一貫性のある3文以上の英文」を書くための材料を集められるようにした。「英作文シート」を「Q&A 活動」と関連性をもつものとした。
- ・「テーマに対するメインアイデア」、「理由や根拠、具体」、「自分の気持ちや考え」といった項目を「英作文シート」に明示し、生徒に文章構成について常に意識させることで、全体として一貫性のある文章を書きやすくなるようにした。

③ 「英作文シート」を用いた指導におけるフィードバックの工夫

生徒が「英作文シート」に書いた英文に対して、文章構成及び英文の正確さに関するフィードバックを行わせることとした。フィードバックにおいては、ペアやグループなど、生徒同士で行うものを重視し、修正記号などを使用させることで、生徒自身が誤りなどに気付くことを促すようにした。

IV 研究の成果と課題

(1) 研究の成果

本研究の成果を検証するため、「Q&A 活動」と「英作文シート」を用いた授業実践を各研究員の所属校で「実践する前」と「実践した後」の2回、生徒に「全体として一貫性のある3文以上の英文」を書かせる課題を与え、その際に行った生徒の意識調査の結果と生徒が書いた英文の採点結果をそれぞれ分析した。「実践する前」と「実践した後」を比較した結果、明らかになった本研究の成果は以下のとおりである。

①既習事項を活用して正確に書くことのできる生徒の増加

- ・英文の採点結果では、「正確さ（文法・表記）」の観点の全体の平均点が、3点満点中の1.85点から2.30点へと、0.45点上昇した。

②発信する内容をもてるようになった生徒の増加

- ・意識調査では、「3文以上の文章を書けた」と回答した生徒の割合が、全体の62.4%から74.1%へと、11.7%増加した。
- ・英文の採点を通じて生徒が実際に書いた英文の内容を分析したところ、「実践した後」の英文は、テーマに関してより一貫性の強いものになっており、生徒が発信する内容をしっかりともてるようになったことが伺えた。

③「まとまりのある文章」を書くことのできる生徒の増加

- ・意識調査では、「3文以上の英文を、文章構成を意識して書けた」と回答した生徒の割合が、全体の19.4%から32.0%へと、12.6%増加した。
- ・英作文の採点結果では、「文のまとまり」の観点の全体の平均点が、3点満点中の1.83点から2.32点へと、0.49点上昇した。

これらのことから、本研究の取組が「既習事項を活用して、自分の考えや気持ちをまとまりのある文章で表現することのできる生徒」の育成に一定の成果を上げたと考えられる。

(2) 研究の課題

本研究では、新学習指導要領が示す「まとまりのある文章」を書くことにつながる指導として、生徒が「全体として一貫性のある3文以上の英文」を書けるようにすることを目指した。今後、新学習指導要領が示す「まとまりのある文章」を生徒が正確に書けるようにするためには、本研究における取組を継続するとともに、本研究では扱わなかった接続詞の指導等を通じて文と文のつながりを意識させる指導の工夫等が必要であると考えられる。また、前述の意識調査において「書く内容が思い浮かばず、1文も書けなかった」と回答した生徒の割合が授業実践の前後で3%からほとんど変化しなかったことから、これらの生徒の実態に合わせた指導を更に工夫していく必要がある。今後も、生徒の実態に合わせながら、生徒が書く英文の「正確さ」と「まとまり」を高めるための指導の工夫を行っていくことが課題である。

英語劇を通しての人間教育

都立小石川中等教育学校 教諭 田中 健

私が英語劇を担当するにあたって定めた狙いは2つ。1つは臨場感あふれる英語の演技を通して、生きた英語を体験させること。もう1つは、生徒同士で協力して、作品を作り上げるという経験をさせることである。

そのため、なるべく多くのことを生徒に任せるようにした。脚本は生徒自らが図書室から探し出し、自分たちの人数や内容に合うよう、脚色・編集を行った。衣装や演出についても、生徒自身が考えて作り上げた。

最も難しかったのは、生徒を集団としてまとめることであった。私は今年度の新規採用教員で、担任はおろか集団を指導した経験もなく、演劇についての知識もなかった。

問題はすぐに表面化した。生徒間で意見が対立する。練習に全員揃わない。また、私の授業の進め方に対する不満も聞こえてきた。このままではこの劇は頓挫する。私は、ベテランの先生方に助言を求めることにした。

まず、すべてを発表会からの逆算で決めた。どの時点で何ができていけばよいかを、生徒に考えさせ、危機意識を共有した。次に、全員の希望を通すことをやめ、少しずつ譲り合って協力するよう訴えた。さらに中等教育学校の強みを生かし、昨年度・一昨年度に英語劇を選択した生徒たちを練習に招き、感想やアドバイスをもらった。私にできないことがあるのなら、できる人に任せるのだ。

これはすぐに効果を発揮した。先輩たちの意見をもとに、主役も脇役も区別なく、それぞれが最大の持ち味を生かせるよう練習に励んだ。また、演劇の得意な生徒が指導役となり、演劇の指導を行った。演出のアイデアも次々と飛び出した。

今回は結果的に優勝をいただいたが、生徒たちが主役も脇役も関係なく、自分たちの役割を考え、全力を尽くす経験を得られたことが、最大の成果であったと考える。

最後に、お忙しい中、本大会を運営された先生方、関係者のみなさまに、この場をお借りして御礼を申し上げる。

自信をもって強い思いを伝えるために

世田谷区立八幡中学校 教諭 南 昭仁

まず始めに、東京都中学校英語学芸大会を運営して下さった関係者の方々に、この場を借りてお礼を申し上げたい。

今回出場した伊瑠麻さんのテーマは“Food Loss and Global Warming from Our Classroom”。授業での彼女は、真面目で冷静な性格、控え目な印象であった。そんな彼女が出場を希望してきたときは少し驚いた。彼女のテーマは話題となっている環境問題。とても良い視点だと感じた。家庭、学校で彼女自身が感じていること、そして社会、国際問題に広がるからだ。「身近な食品ロスを看過できない、私たちに何ができるのか」という彼女の強い思いが伝わってくる。スピーチの練習前に、彼女の原稿をALTや他の教員と何度か添削をした。内容については変更せずにそのまま彼女の考えを反映させた。

彼女にとって初めての英語スピーチである。まずは本校学芸発表会にてスピーチの場を設けていただいた。学芸発表会に向けての練習では、最初は意見を主張するには、声が小さく、抑揚が乏しかった。また話す英文も、書き言葉と話し言葉の違いに戸惑っていた。彼女が書いた文章であるが、彼女の「ことば」になっていない。彼女の思いを人に伝えるために、私たちは、言葉の緩急をつける箇所や抑揚、発音等を伝えた。また、彼女のスピーチを動画で見直したり、過去のコンテスト優勝者の動画を見せたりもした。回を重ねるごとに、感情をのせるために、話す言葉を短く簡潔な文に変えてきたり、接続詞を加えたり、強く読む箇所にチェックを入れていたり、彼女なりに工夫を重ねてきた。その甲斐あって学芸発表会では堂々と意見を発表することができた。使用したパワーポイントもよく完成されており、私たちがほとんど手直しの必要がない程であった。彼女のスピーチへの情熱が反映されているように感じた。続く区のスピーチコンテストでは見事優勝。彼女は感情をそれほど表に出さない生徒であるが、驚きと同時に、ようやく終わったという気持ちでいっぱいだったようだ。都大会出場決定を伝えると、その場では考えもつかないようであった。

その後の練習では、ALTから発音や文法について細かい箇所まで指導して頂いた。私たちからは、間を置くこと、強くゆっくりと伝える箇所、全体にメリハリをつけること、ジェスチャーも更に活用できると良いこと等を伝えた。そのような課題を家に持ち帰り、一生懸命練習してきたのだろう。本大会直前の練習では、緩急のついた安定した声、自然で適度なジェスチャーも新たに加わっており、区のスピーチの時からまた一段と成長したパフォーマンスとなっていた。短期間でスピーチに臨む姿勢や技術を吸収していく彼女に驚いた。あとは、本番で力が出せるかどうか。最後にはとにかく「自信をもって」と声をかけた。

本番では、いつもどおりのスピーチができ、バストを尽くせていたと思う。しかし、まさか都大会で優勝できるとは思ってはいなかった。私たち教員、応援に駆けつけたご家族ともに驚き、そして彼女が一番驚いていたようだった。達成感に満ちた嬉しい表情、またプレッシャーから解放された安堵の表情があった。

東京都中学校英語学芸大会出場を通して、彼女は自身の努力とともに、それを支える教員や多くの方々の助言を頂き、それを見事に生かし、大きく成長した。このような素晴らしい機会を与えて下さったことに改めて感謝を申し上げたい。運営に携わった皆様、本当にありがとうございました。

都中英研研究部公開授業を終えて

渋谷区立松濤中学校 主任教諭 前川 卓哉

はじめに

平成 31 年 2 月 22 日（金）に東京都中英研研究部の公開授業及び研究発表会が開かれた。その公開授業に於いて、約 200 名の参観者の前で授業を行う機会を得た。指導助言を引き受けていただいた国際教養大学の内田浩樹先生、遠い所をお越しいただいた先生方、また素晴らしい会を運営して下さった研究部の先生方に感謝を申し上げたい。

授業のねらい

対象としたのは第 2 学年で、クラスサイズは少人数授業を実施している関係で 18 名であった。NEW HORIZON English Course 2（東京書籍）Presentation ③「好きなこと・もの」を扱った。本単元は好きなこと・ものについての短い文章を導入とし、生徒自身のプレゼンテーションへ繋げ、その後分量のある文章のリーディングへと展開されていくものである。公開授業ではリーディングパートに焦点を当てて 50 分の授業を行った。

普段授業をする上で重視していることは、別段特別なことではなく誰もがやっているであろう、①原則英語での授業展開、②生徒の英語使用の時間確保、③学習内容を踏まえた Personalization の 3 点である。公開授業の中でのねらいとしては①・②が中心ではあるが、単元のねらいとしては③に力点を置き、「自分たちが住む地域にあったらいいと思うフリー教育プログラムについて英語で書く」ということをゴールに設定した。

授業について

英語で書かれた文章をどのように扱えば、生徒は日本語を介さずに理解につなげていけるのかという点について意識しながら授業を組み立てた。その一つの方法として、目的を変えて同じ英文を何度も読ませるという手法を用いた。具体的には、①本文を読みながら導入した新出語を見つけていく、②音声を聞きながら本文を目で追う、③内容に関する質問を与え回答部分に下線を引かせる、④自分が重要だと思う 3 語を選び、理由を考える、といった段階を追うことで、本文の内容理解を深めていけるような構成とした。また、特に④の活動ではその発展として、選んだ 3 語について理由も含めてペアで英語を用いて話し合わせたが、インフォメーションギャップを生じさせることで、やりとりをする目的ももたせた上で英語を使わせることができた。

授業の最後には次時に向けての準備として、自分の地域にあったらいいと思うフリー教育プログラムについても考えさせ、英語で話し合わせた。数人に口頭で簡単に発表してもらったが、中学生ならではの非常に柔軟で興味深い発想を聞くことができた。

終わりに

多くの方々に授業を見ていただき非常に良い経験となった。協議会でいただいた指導講評も今後の自分の大きな糧となった。また、普段経験したことのない環境でも、間違いを恐れずに積極的に発言し授業を頑張ってくれた生徒達にも本当に感謝している。

東京教師道場で得たこと

目黒区立第八中学校 主任教諭 椿 恭子

東京教師道場とは、授業力向上を目指す部員が豊富な知識と経験を持つリーダーや教授の指導のもと、授業研究、協議会を通して授業の腕を磨く2年間の研修の場である。自分の課題と真正面から向き合い、2年間同じメンバーで切磋琢磨しながら成長していくことができる。これが教師道場の魅力であると思う。

東京教師道場で学ぶ以前は、4技能におけるそれぞれの指導スキルを高めることが授業力の向上につながると考え、学習指導をしてきた。しかし、それは「授業力の6要素」の中の一つの要素でしかないことを早々に学んだ。小手先だけのテクニックではなく、単元における授業のつながり、年間指導計画の中での単元ごとのつながり、中学校3年間におけるつながりを見据えた指導の連続性の大切さを学んだ。英語教育とは何か、3年間で育てるべき生徒像とは何かについて、真剣に考えさせられた2年間だった。

毎月行われる授業研究では、授業者が2週間前までにメールで学習指導案を公開し、その内容について部員とリーダーで指導案検討を行った。そこで一つ一つの活動の意味を考え、それが授業の中でどのような役割を担い、生徒の英語力の到達目標につながる活動であるのかを常に意識する視点を身に付けることができた。そして、助言をもとに練り上げられた学習指導案に沿って、授業研究に臨んだ。授業後の協議会では「授業の6要素」といった視点で、授業について分析をした。一つ一つの活動を全員で検証し、「授業の良かった点」「改善が必要な点」「改善案」を議論した。部員同士、本音で授業について意見交換し合う中での学びは、得るものが多かった。そして、協議会の度に教授やリーダーの先生から数々のアドバイスや資料、参考文献が紹介された。協議会を重ねるごとに、授業を多面的に考察する力がついたことを実感した。「自分だったらどうするか」という視点は、これから所属校や若手の先生方へ道場で学んだことを還元していくために非常に重要な視点であると考えている。協議会後は自身の新たな課題点を見つけ、再度指導案を作成して共有した。また夏季集中協議では、異校種の教員と教材研究や指導方法の協議を行った。ここでは、小学校・中学校・高等学校との学びの系統性を意識して指導をしていく視点を身に付けることができた。熱意と向上心に溢れ、課題意識と指導力の向上に高い意欲をもった先生方に出会い、切磋琢磨する中で、教員の資質として最も大切な使命感の重要性に改めて気づかされ、自己の向上心を喚起することにもつながった。

東京教師道場で学んだ2年間は、英語教師として授業に集中して向き合うことのできた貴重なものであった。尊敬する多くの師と出会えたこと、良き仲間と相互研鑽ができたことは、私の教師生活の中で大きな宝となった。

最後に、このような研修の機会を得られたことに対し、研修を企画してくださった東京都教育委員会、快く送り出してくれた勤務校の管理職及び職員、指導をいただいた教授及びリーダー、部員に心から感謝申し上げたい。

今後は、東京教師道場での学びを他の先生方と共有し、勤務校の生徒たちとこれから出会う生徒たちのためにさらに力をつけていきたい。

第43回 関東甲信地区中学校英語教育研究協議会 東京大会（報告）
大会主題提案：主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度の育成

～新学習指導要領全面実施に向けて～

東京都中学校英語教育研究会

1 はじめに

今大会の副題は、平成22年度に実施された第34回関東甲信地区英語教育研究協議会東京大会の副題と同じ「新学習指導要領全面実施に向けて」である。学習指導要領はおよそ10年に一度改訂される。9年振りに開催される第43回東京大会は、前東京大会に続き、教育の変革期と重なることとなった。

学習指導要領が変われば、教育現場の指導も変わる。今回の学習指導要領の改定は、明治時代以来の最大の教育改革とも言われる。私たち中学校英語教員は、この大変革を肯定的に対応し、子供たちの英語力を向上していかなければならない。

9月にラグビーワールドカップが行われ、海外から多くの人々が来日した。来夏に開催される「東京オリンピック・パラリンピック」では、記録的な来日数になることが予想される。

英語教員へ寄せられる「英語を日常的に使うことのできる人材の育成」への期待はかつてないほど大きい今日、本大会の果たす役割は重要であると考えます。

2 主題設定の理由

東京都中学校英語教育研究会（以下「都中英研」と略）では、令和元年度の行動目標を次のように設定した。

「グローバル化に対応した教育環境づくりを進めるため、国は小・中・高等学校を通じた英語教育全体の抜本的充実を図ろうとしており、社会全体も大きな期待を寄せている。平成29年3月に告示された学習指導要領においては、小学校第3学年から外国語活動を、第5学年から外国語科を導入することになり、それに伴い、中学校の外国語科も大きな変革が求められることになった。都中英研は、その期待と変革に対応するため、次のような行動目標のもと中学校英語教育のなご一層の充実・発展を目指して活動している。

1 組織の充実とその活性化を図る。

- (1) 都中英研の活動がより充実したものとなるよう、組織全体の見直しを継続的に行う。
- (2) 都中英研の各種事業により多くの教員や学校が参画できるようにし、その活性化を図る。
- (3) 都中英研の諸活動が一層活発に進められるよう、各地区の幹事と連携を密にする。

2 人材の発掘とその育成に努める。

- (1) 有能な人材を発掘し、リーダー層の育成を図るとともに、英語教員全体の資質向上を推進する。
- (2) 英語教員の資質向上を目指した研修事業を積極的に企画し遂行する。
- (3) 英語教員の育成と研修の充実を目的に、授業研究を一層活発に推進できるよう支援体制を強化する。

3 英語教育に関わる関係機関や関係団体との連携を強化する。

- (1) 第32回オリンピック競技大会（2020／東京）、東京2020パラリンピック競技大会の開催を受け、東京都教育委員会等とも連携しながら、東京方式少人数・習熟度別指導の充実を図り、英語が使える生徒を育てる。
- (2) 「東京都小学校英語教育研究会」、「東京都高等学校英語教育研究会」との情報交換を密に行い、小・中・高等学校の学びを円滑に接続できるようにする。

4 調査・研究の充実を図る。

- (1) 学習指導要領の趣旨を踏まえながら、組織的な調査・研究を推進する。

- (2) 英語教育に関わる基礎的事項等についての調査活動を行う。
- (3) 英語教育に関わる今日のかつ実践的な課題についての研究活動を行う。特に小学校における外国語活動、外国語科との関連に留意した研究を充実する。
- (4) 生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための取組、英語「話すこと」の評価に関する取組についての調査・研究を推進する。

5 英語教育に関わる各種情報の収集・発信を進める。

- (1) これまでの広報媒体を活用して、各種情報の発信を行う。
- (2) HP、SNS の活用を図り、それを通して各種情報の受信・発信を行う。
- (3) 各地区との連携を進め、情報の共有化にとどまらず相互協力による事業を推進する。

社会的情勢として、グローバル化が急速に進む中で、外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力の育成はますます求められている。東京オリンピック・パラリンピックを契機に多くの外国人の方が来日し、外国人の方との交流の機会がこれまで以上に増えることが予想される。

また、令和2年度には、小学校において外国語活動及び外国語の授業が全面実施となり、中学校においても令和3年度の全面実施に向けて、新学習指導要領への具体的な移行期間への対応が責務となる。

さらに、大学の入試改革も視野に入れた生徒の外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力の育成は大きな課題である。

そこで本大会では「主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度の育成 ～新学習指導要領全面実施に向けて～」を主題として、各分科会にて次のとおり研究することとした。

- ・「語い」指導の充実
- ・「ペーパーテスト」における評価の充実
- ・「読むこと、書くこと」の言語活動の充実
- ・「聞くこと、話すこと」の言語活動の充実

第一分科会では都中英研 研究部が42年間に渡って研究をしてきた「語い」について、第二分科会では都中英研 調査部が20年以上研究してきた「テスト」について、第三・第四分科会では他県のスベニヤリストの先生方をお願いし、それぞれ「読むこと、書くこと」の言語活動、「聞くこと、話すこと」の言語活動に関わる発表を行うこととした。

3 研究の概要

(1) 第一分科会「語い」指導の充実

都中英研の42年間語いの研究を続けてきた研究部が発表を受けもつ。新学習指導要領では、小学校で600～700語程度、中学校で1600～1800語程度の語を指導すると示されている。小学校から中学校卒業までに指導する2200～2500語程度の語（語いリスト）指導の充実について研究する。

(2) 第二分科会「ペーパーテスト」における評価の充実

長年に渡りテストの研究を続けてきた調査部が発表を受けもつ。新学習指導要領での評価の観点である「知識・技能」及び「思考・判断・表現」を定期考査などのペーパーテストでいかに評価していくか、また、「CAN-DOリスト」を基にした指導と評価が一体となったテストの在り方について研究する。

(3) 第三分科会「読むこと、書くこと」の言語活動の充実

埼玉県、山梨県、茨城県、群馬県の各代表者が発表する。聞いたり読んだりして理解したことを基に、思考・判断したことについて、新たに読み取ったり書いたりすることを通して自分の考えや気持ちなどを主体的に表現する言語活動の充実について研究する。

(4) 第四分科会「聞くこと、話すこと」の言語活動の充実

栃木県、千葉県、神奈川県、長野県の各代表者が発表する。聞いたり読んだりして理解したことを基に、即興で事実や意見、感情等を伝え合いながら、会話を継続・発展させる言語活動の充実について研究する。

以上が具体的な研究内容の概要である。

総務部報告

(総務部長 遠藤 哲也)

全都の地区幹事名簿を6月中に作成し、各地区に配布しました。また、関ブロや全英連の大会案内については、各区市町村教育委員会にお願いし、各校に配布していただきました。

年間事業は以下の通りです。

①定期総会

5月9日(木)に武蔵野市立第五中学校を会場に実施しました。総務部では都中英研各部と連絡を取り合い、総会資料を作成しました。

総会後の記念講演会では、東京都教職員研修センター 研修部授業力向上課 森田 剛統括指導主事より「新学習指導要領の全面実施に向けて～英語の評価について～」という演題で講話をいただきました。

②全英連中学校部会

全英連から求められた昨年度の活動状況と本年度の役員名簿を作成し、5月末までに提出しました。

③関ブロ東京大会第1回理事研修会

オリンピックセンターにて6月28日(金)に開催され、11月の東京大会に向けた準備が行われました。東京都からは刀根都中英研会長、佐藤副会長以下8名の役員が参加しました。

④関ブロ東京大会実行委員会

8月22日(木)に武蔵野市立第五中学校にて開催しました。各部会からの活動状況報告や今後の研究の方向性について検討しました。

⑤関ブロ第2回理事研修会

オリンピックセンターにて、11月14日(木)に開催されました。東京都からは刀根都中英研会長、佐藤副会長以下9名の役員が参加しました。

⑥関ブロ東京大会

11月15日(金)オリンピックセンターにて、「主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度の育成～新学習指導要領全面実施に向けて～」を主題とした第43回関東甲信地区中学校英語教育研究協議会東京大会が開催されました。午前は大ホールにて全体会が行われ、開会式に続き、伊地知研究部長による基調提案、青山学院大学 木村松雄教授による記念講演がありました。午後は、品川区立荏原第六中学校 岡崎指導教諭による公開授業がありました。続いて4つの分科会が行われました。第1分科会では研究部が「『語い』指導の充実」について、第2分科会では調査部が「『ペーパーテスト』における評価の充実」について発表しました。

参加者は600名を超え、9年ぶりに開催された東京大会は、盛会のうちに無事終了しました。

⑦英語学芸大会

12月1日(日)に豊島区立千登世橋中学校の体育館を会場に実施されました。総務部でも受付等のお手伝いをしました。代表生徒のSpeechやPlayは大変レベルの高いものでした。

【年間事業】

- ① 5月 定期総会
- ② 5月 全英連中学校部会
- ③ 6月 関ブロ第1回理事研修会
- ④ 8月 地区幹事会
- ⑤ 11月 関ブロ第2回理事研修会
- ⑥ 11月 関ブロ山梨大会
- ⑦ 12月 英語学芸大会(都大会)

事業部報告

(事業部長 横山 達也)

1. 第72回 東京都中学校英語学芸大会

日時：令和元年12月1日(日)

会場：豊島区立千登世橋中学校

審査員：Ms. Kimiko Nakamura

(元世田谷区立梅ヶ丘中学校長)

Mr. Jun Kodama

(英語検定協会)

Mr. Martin Mcdougall

(ALT)

結果：Speakingの部(参加15校)

1位 Johansson Irma

(世田谷区立八幡中学校)

Food Loss and Global

Warming from Our

Classroom

2位 Kodama Niina

(港区立高陵中学校)

Are Tattoos Bad?

Playの部(参加9校)

1位 都立小石川中等教育学校

Rainbow Maker

~The Invisible Things~

2位 千代田区立九段中等教育学校

MOMO

3位 足立区立新田中学校

The Merchant of Venice

特別賞 板橋区立西台中学校

A Winner Never Quits!

今年度も、豊島区立千登世橋中学校を会場として、英語学芸大会を開催することができた。校長先生を始め、教職員の方々のご協力に心から感謝の意を表したい。

また、椅子並べなどの会場の設営や、終了後の後片付けを、多くの先生方が手伝ってくださったことにも、心からお礼を申し上げたいと思う。

スピーキングでは、各地区の代表として、メッセージを伝えようという意欲が感じられた。環境問題、ジェンダー、SDGなどのさまざまなテーマについて、自分の主張を堂々と発表していた。

プレイでは、英語の台詞のレベルが高くなっていった。登場人物の感情が伝わってきて、観客を引きつけていた。また、大道具や照明も工夫されていて、作品を楽しく鑑賞することができた。

2. 第35回 授業力アップ研修会

日時：令和2年2月17日(月)

会場：千代田区立九段中等教育学校

テーマ：タスク型リーディング授業

～理解から表現へ～

授業者：亀田 洋斉 教諭

講師：中村 貴美子 先生

(元世田谷区立梅ヶ丘中学校長)

九段中等教育学校は、中高一貫教育校として、6年間を見通した学習指導を行っている。英語科では、共通の指導案に基づいて少人数指導を実施している。

今回の研究授業は、パキスタンのマララさんのスピーチを題材にして、話し手の意見に対して感想や自分の考えを発表する活動につなげることがねらいであった。生徒の発表につなげるために、これまでの授業でどのような指導がされていたかがわかり、大変参考になった。また、楽しい雰囲気の中で生徒がのびのびと活動しているのが印象的であった。

講師の中村先生からは、生徒が発信する力を育てるために何が必要なのか、指導をいただいた。

調査部報告

(調査部長 大森 博)

1 新コミュニケーションテスト報告

2019年度中英研調査部の新コミュニケーションテストの実施にあたり、多くの学校にご参加いただいた。また、今年度も研究部員の所属校から多数の参加申込みをいただいたことも大変ありがたいことであり、ここに御礼申し上げたい。

2019年度の実施状況は以下のとおりである。

第1学年	1,368人
第2学年	1,686人
第3学年	1,739人
総計	4,793人 (2018年度は6,961人)

【概要】

各学年の領域別結果は以下のようになっている。

<第1学年>

第1学年は「聞くこと」の領域に絞った30点満点のテストである（以下は4年間の経年変化）。

2019年度	2018年度	2017年度	2016年度
25.2	25.2	24.8	24.5

新教育課程への移行を見据えて、1学年の調査内容を修正する時期に来ている。来年までは修正を加えずに実施し、2021年の新学習指導要領完全実施に合わせて、新たにする予定である。

<第2学年>

	文法	聞くこと	書くこと	読むこと
配点	30	20	30	20
平均点	25.1	13.7	18.2	13.9
達成率%	83.7	68.7	60.6	69.3

<第3学年>

	文法	聞くこと	書くこと	読むこと
配点	30	20	30	20
平均点	21.3	15.3	14.4	10.3
達成率%	71.1	76.7	48.0	51.5

「書くこと」の達成率が低い傾向は変わっていない。2つの大問があるが、一方の

与えられたテーマについて3文で答える自由英作文をここで取り上げる。第2学年は日本に来る留学生への自己紹介、第3学年は海外のサマースクールで参加したい体験プログラムというテーマであった。達成率は2年72.8%、3年57.8%とまずまずの結果だった。今まで同様、3文それぞれを減点法で採点し、文脈の是非に応じて0～2点を加えた方法で採点したが、減点を回避するために3文に上手にまとめた解答もある一方、間違えを恐れずに書きたい内容を3文以上で書いたものの細かなミスにより満点にならない解答もあった。ループリック等、今後の採点法を検討したい。また、3年リーディング問題の達成率が51.5%と例年より低い結果となった。問題の難易度やリーディング力そのものの実態を調べるなど、分析を行っていききたい。

2 夏期ワークショップ

研究部等の実践を参考に25年度から開始した調査部夏期ワークショップは、7回目になった。今年度も千代田区立九段中等教育学校を会場に実施することができた。

講師に玉川大学の工藤洋路准教授をお招きし、「コミュニケーションテスト」のスペックから問題づくりへ～読むこと・書くこと～に取り組んだ。今回はテスト全体のスペックをフォーカスした後、各自の問題を改善する時間をとり、オーセンティックなテストに改善できるのか協議し、改善案を作成した。最後に工藤先生より、具体的なアドバイスをいただいた。

3 令和元年度関プロ大会

来年度は東京での開催となり、調査部は第二分科会を担当した。会場定員160名近くが参加のなか、新学習指導要領でのペーパーテストのあり方を提案した。「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の3領域それぞれについて「知識・技能」と「思考・判断・表現」の観点で、どう授業を組み立て、評価に結び付けるかを提案し、最後に工藤洋路先生から指導助言をいただいた。この場を借りて、関係した全ての方々に感謝申し上げたい。

4 2019年度新コミュニケーションテストご案内

参加費は無料。ただし先着順での受付予定。詳細は都中英研HPでご確認いただきたい。

研究部報告

(研究副部長 文京区立第十中学校
主任教諭 原田 博子)

1 研究主題と概要

研究テーマ：研究部基本語い1200と
語い指導再考(2)

昨年度に引き続き、「語いリスト」と「語い指導」との2つの分科会で研究を行った。結果を考察するとともに、「研究部基本語い1200」と比較した。

語い指導分科会では、新出語いの効果的な導入方法を検討し、語いの指導法の分類を行うとともに、Nationのfour strandsの考え方からどのような語いを使った活動が必要か研究した。

2 第17回 研究部ワークショップ

今年度は2回のワークショップを実施し、2日間あわせて約120名の先生方に参加していただいた。

第1回 8月6日(火)

大田区立志茂田中学校

- ①「新学習指導要領に向けた授業構成とやり取り」

橋本 晋作

(葛飾区立中川中学校)

- ②「オーラル・イントロダクションを活用した指導」

一ノ瀬 麻子

(港区立六本木中学校)

原田 博子

(文京区立第十中学校)

- ③「コミュニケーションにつながる文法指導の工夫」

島田 拓

(足立区立入谷南中学校)

伊地知 義信

(豊島区立千登世橋中学校)

第2回 8月20日(火)

品川区立荏原第六中学校

- ①「パフォーマンステストの使い方を考える～指導と評価の一体化を目指して～」

森沢 俊彦

(品川区立荏原第五中学校)

- ②「英語のユニバーサルデザイン授業～スムーズな小中連携を目指して～」

岡崎 伸一

(品川区立荏原第六中学校)

- ③「生徒同士の会話(チャット)をより自然なものに近づける指導の工夫」

高杉 達也

(都立小石川中等教育学校)

3 第43回関東甲信地区中学校英語教育研究協議会にて研究発表

11月15日(金)

『「語い」指導の充実を目指して』

～生徒がやり取りで使用する語彙の検証と語彙指導法の研究～

発表者：三上 健二郎

太田 裕也

橋本 晋作

指導講師：太田 洋 先生

(東京家政大学教授)

4 研究部公開授業・研究発表会

2月21日(金)江東区第四砂町中学校にて水嶋 諒主任教諭が同校の2年生の授業を公開し、玉川大学の日臺 滋之先生からご指導をいただいた。研究発表では「語いと英語教育(43)」～研究部基本語いリスト1200と語い指導再考(2)～という内容で発表した。

プロジェクトチーム部報告

(プロジェクト・チーム部長 齊藤 節子)

今年度、プロジェクトチーム部では、新学習指導要領の目標に照らし、「新学習指導要領に向けての指導法～CAN-DOリストを活用して～」をテーマに、コミュニケーション力を高める具体的な指導法についての研究を行った。

毎年、2回の研修会を行っているが、今年度は、2回目の研修会を第43回関東甲信地区中学校英語教育研究協議会と兼ねることとし、1回のみだが夏季休業中に研修会を実施した。

夏季研修会では、プロジェクトチーム部員(2名)による実践報告をした後、東京家政大学 教授 太田 洋先生より約2時間、研究テーマに沿った貴重な講義をしていただいた。『授業づくりの幅を広げる』『学習者が経験する過程』『具体的な授業づくりの流れ』など、授業改善につながる貴重なヒントをいただいた。夏季休業中にも関わらず、100名もの参加に、英語教育に対する熱い熱意を感じた。

プロジェクトチーム部研修会

日 時：令和元年7月31日(水)

会 場：豊島区立明豊中学校
(実践発表)

飯沼 美千代 教諭
(練馬区立大泉中学校)
原田 博子 主任教諭
(文京区立第十中学校)

講 師：太田 洋 先生
(東京家政大学 教授)

出版部報告

(出版部長 今本 由美子)

出版部では、主に「都中英研だより」と「中英研会報」の作成・発行を担当している。今年度、計3回の部会を開催し、「都中英研だより」や「中英研会報」の編集企画会議、校正、発行作業等を行ってきた。

また今年度は、第43回関東甲信地区中学校英語教育研究協議会 東京大会の要項、報告書の作成も出版部が中心となって進めた。具体的な活動状況は以下の通りである。

○「都中英研だより」第73号

(令和元年10月15日発行)

会長あいさつ、第43回関東甲信地区中学校英語教育研究協議会 東京大会 案内、中英研各部の研修会報告等を掲載した。

○「令和元年度 中英研会報」第78号

(令和2年3月上旬発行予定)

都中英研の年間活動や英語教育活動のまとめとして、「平成から令和へ 時代の先端をいく」、「中学校英語科教員への期待」、「令和元年度 東京都教育委員会の取り組み」、「東京都教職員研修センターにおける外国語(英語)に関する研修について」、また、研究開発委員会、教育研究員報告、英語学芸大会報告、東京教師道場報告、各研究大会報告、各地区の活動状況、中英研事業報告、各部活動報告等を掲載する予定である。

○「第43回関東甲信地区中学校英語教育研究協議会 東京大会 要項」

(令和元年11月15日発行)

○「同 報告書」

(令和2年3月中旬発行予定)

第59回 大都市公立中学校 英語教育研究会連絡協議会

京都市大会報告

「コミュニケーション能力の育成を目指した授業作り

～言語活動の充実の視点から～」

開催日：令和元年10月11日（金）

会 場：ホテルセントノーム京都

副会長 佐藤 ひろみ

1 開会式

大会実行委員長の挨拶に続き、新学習指導要領の実施を踏まえた主題設定の理由説明がなされた。

2 研究討議

①各都市から回答のあったアンケート結果と分析報告

「コミュニケーション能力の育成を目指した授業作り」について、各自治体とも話すこと（やり取り）の指導に力を入れ、ALTの活用、学習形態の工夫、パフォーマンス課題の設定等工夫をしているという結果が出た。また授業研究会の他に、English Campを実施し生徒が生活の中で英語を用いる取り組みをしている自治体もあった。また教員対象にTOEIC等の受験推奨等資質向上に向け様々な工夫がされている。

②アンケート結果を踏まえたグループ別討議

「スピーキングとライティング」を意識した4技能育成のために、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業作りに向けた工夫、英語科教員の資質・指導力の向上に向けた取り組みとしてタブレットの活用、ルーブリック作成、ALT増員等があった。Speaking Testを全市の小学校5、6年生と中学1～3年生で実施し話す能力の

向上を目指す取り組みもあった。「小学校英語から学びの接続について」では小中合同の外国語活動の交流、小中連携の加配教員配置等の接続の取り組みが報告された。「小学校での活動・授業を中学校が知る必要がある。」が共通した意見であった。

3 研究発表（実践報告）

京都市立東山泉小中学校 長谷川 由美教諭による「小学校外国語活動の視点を活かした中学校英語科の授業改善」と題し、小中一貫校でのゴールを見据えた指導の発表があった。「既習の表現を積極的に使おうとする態度」が養われた等の成果を報告された。次に京都市立大宅中学校 三谷 吉宏教諭による「パフォーマンス課題の実践と単元を見通した授業づくり」と題し、パフォーマンス課題を見据えた授業デザインと実践例について発表があった。

4 講演

演題：「コミュニケーション能力の育成を目指した指導と評価
～言語活動からパフォーマンス課題へ～」

講師：泉 恵美子 氏

（関西学院大学教授）

小中高の英語教育改革と新学習指導要領の5領域の目標と活動について講演いただいた。knowledgeとskillをactionとemotionにつなげる指導の大切さや、教科書をではなく教科書で教える発想をもつこと、英語科教員同士の話し合いをもち、授業改善に向けて生徒理解を深め粘り強い指導の継続が肝要であるとお話をいただいた。

5 閉会式

今回は令和2年10月9日（金）ホテルアウィーナにて大阪市と堺市で協同開催すると報告があった。

第69回 全国英語教育研究団体
連合会総会

全国英語教育研究大会 三重大会
「サミット開催の地 三重からの発信!
～校種間の学びの系統性を意識した英語教育～」

全英連 副会長兼 中学部会長 難波 浩明
(足立区立第十四中学校)

1 大会の主題等

令和元年11月8日(金)・9日(土)の2日間、三重県において、第69回全英連総会及び全国英語教育研究大会が開催された。「サミット開催の地 三重からの発信!～校種間の学びの系統性を意識した英語教育～」を大会コンセプトとして、地域で輝き、世界で活躍する児童・生徒等を育成するための英語教育の在り方を考える。

2 総会・記念講演

- (1) 期 日：11月8日(金)
(2) 会 場：三重総合文化センター
大ホール

全英連会長 鈴木真人校長(都立深川高等学校)、大会実行委員長 服部守賀校長(三重県立津東高等学校)の挨拶に引き続き、会務報告等滞りなく行われた。

(3) 記念講演

講師：向後 秀明 教授
(敬愛大学)

「The Critical Role of the Teacher in Moving Forward with the New Courses of Study」

3 授業発表

- (1) 小学校授業実演(45分)
授業実演者：岡井 崇 教諭
波多野 喜美代 JTE
(三重大学教育学部附属小学校)
授業助言者：直山 木綿子 教科調査官
(文部科学省)

<内容>

友達に、タブレット端末を活用しながら、自分の観たい競技とその理由を聞き手に伝わるように発表するという形で単元が構成され、本時では、オリ

ンピック競技に関するチャンツや好きなスポーツを聞き合うスモールトーク、教員や友達の発表などを通して、よりよいスピーチになるように改善していくとする生徒の学習活動が見られた。

- (2) 中学校授業実演(50分)
授業実演者：庄山 大樹 教諭
(三重県津市立芸濃中学校)
授業助言者：太田 光春 教授
(名古屋外国語大学)

<内容>

本時の授業は、New Horizon English course ② Unit 7 The Movie Dolphin Tale のまとめにあたる。ペアワークやグループワーク等を通して、物語を読んで感じたことを理由を添えて伝え合ったり、自分が誰かを笑顔にした経験について伝え合ったりする活動が行われた。授業全体を通じて、自律した学習者を育てるために、生徒の気づきや主体性を大切にしている授業展開が見られた。

- (3) 高等学校授業実演(50分)
授業実演者：伊藤 毅 教諭
(三重県立津高等学校)
授業助言者：向後 秀明 教授
(敬愛大学)

<内容>

本単元では、「地域の未来について考える」を学習・ディスカッションのテーマとして設定し、POLESTAR English Communication III から関連する3つの単元を集約した形で、学習が進められていた。三重県の地域活性化に向けて、グループワークで意見を出し合い、全体で意見を共有する授業展開であった。

4 分科会

- (1) 期 日：11月9日(土)
(2) 会 場：三重総合文化センター各施設
(3) 分科会数
小学校 6 中学校 10
高等学校 12 中高連携 2

5 今年度の研究大会の特徴

ペアワークやグループワークなどを通じて、身近な内容や与えられたテーマについて、自分の思いや考えを根拠を示しながら英語で伝え合う言語活動が多く見られた。

主体的に英語を用いてコミュニケーションを 図ろうとする態度の育成

～新学習指導要領全面実施に向けて～

副会長 遠藤 哲也

1. 期 日
令和元年11月15日（金）
2. 会 場
国立オリンピック記念青少年
総合センター 大ホール他
3. 大会日程
9：10 受付
9：40 開会行事 基調提案
10：20 記念講演
11：30 昼食
13：00 公開授業・指導・講評
14：35 分科会
16：35 閉会行事
4. 参加人数
612名
5. 記念講演
講 師：青山学院大学 教授
木村 松雄 氏
主 題：「Learning-centered（学習
中心主義）な時代を迎えて
- 2020年度以降の課題 -」
6. 公開授業
授業者 : 品川区立荏原第六中学校
指導教諭 岡崎 伸一
指導助言者：東京家政大学 教授
太田 洋氏
7. 分科会
(1) 第1分科会
「『語い』指導の充実」
東京都中学校英語教育研究会
研究部
指導助言者：東京家政大学 教授
太田 洋氏
・小学校から中学校卒業までに指導
する2200～2500語程度の語い指
導の充実について提案した。
- (2) 第2分科会
「『ペーパーテスト』における評価の充実」
東京都中学校英語教育研究会
調査部
千代田区立九段中等教育学校
主任教諭 荒川 高広
調布市立第五中学校
指導教諭 加藤 真由子
指導助言者：玉川大学 准教授
工藤 洋路 氏
・ペーパーテストでの「知識・技能」
「思考・判断・表現」評価、「聞
くこと」「読むこと」「書くこ
と」の指導と評価が一体となった
テストの在り方について提案した。
- (3) 第3分科会
「『読むこと、書くこと』の言語活動の
充実」
埼玉県、山梨県、茨城県、群馬県か
ら提案があった。
- (4) 第4分科会
「『聞くこと、話すこと』の言語活動の
充実」
栃木県、千葉県、神奈川県、長野県
から提案があった。
8. その他
(1) 第44回大会
・開催地 山梨県
・期 日 令和2年11月13日（金）
・全体会場 ベルクラシック甲府
(2) 第45回大会
・開催地 茨城県
・期 日 令和3年11月12日（金）

千 代 田 区

神田一橋中学校では、ウエストミンスター語学研修や本校独自で行っているオーストラリア語学研修において、教育会英語部会で作成した指導案をもとに、生徒の事前学習を行った。

(神田一橋中学校教諭 齋藤綾華 記)

麴町中学校では、経産省主催の「未来の教室」の取り組みの一環として、2年生で生徒に1人1台のタブレットを渡しOriginという4技能を備えたアプリを使いながら文法問題に取り組ませている。問題を解きながら、規則性を自分で見つけ出す生徒も出ており、生徒個人のペースで進めているので、早く終わった生徒は新しい文法事項を学んでいる。まだ試験段階ではある。Originを導入することによってどのように生徒の学力が伸びるのかも検証している。

(麴町中学校主任教諭 橋浦光 記)

九段中等教育学校では、年10回のKudan English Teacher's Workshopを行っている。今年度は「新学習指導要領に対応した指導と評価について」という研修テーマに基づき、共通指導案による質の高い授業を行うために、4月にはテストの作り方と本校の評価・評定について、8月には新学習指導要領の指導と評価について、ビデオによる指導方法の検証は、前期と後期課程の授業について行った。また、大学入試問題研究発表会やGTEC分析会など、幅広く研修を行っている。3月にはKUDAN ENGLISH 実践発表会を行った。

(九段中等教育学校主任教諭 柳絵未 記)

中 央 区

I. 研究主題

「4技能を総合的に育成する指導の工夫
～新学習指導要領に向けて」

II. 研究の経過

◇4月17日

組織作り、研究主題決定、
年間活動計画作成

◇5月8日

中央還元研修・スピーキングテスト検討
ALTのスピーキングテストの実践の紹介

◇10月9日 講演会

「Interactive Reading Activities」

講 師：神田外語大学大学院教授
Gordon Myskow 先生

◇11月8日 第2学年研究授業(小中連携)

授業内容：New Crown 2

Lesson 6 My Dream

授業者：谷口 了太 主幹教諭(晴海中)

講 師：順天中学校・高等学校

教諭 Chang Tekka 先生

◇11月13日 第1学年研究授業

授業内容：New Crown 1

Lesson 8 School Life
in the USA

授業者：畑中 恵 主任教諭(佃中)

講 師：昭和学院中学校・高等学校

教諭 Kevin Forbes 先生

◇10月7日～12月20日

スピーキングテスト実施

◇2月20日 今年度の反省・研修報告

(晴海中学校主幹教諭 谷口了太 記)

港

区

I. 研究主題

「コミュニケーション能力を高める指導の工夫—小・中学校の接続を踏まえて—」を主題とし、小学校国際科研究部と連携して実践・研究を進めた。

II. 研究の経過

- ◇ 4月24日 年間計画立案、組織編成
- ◇ 6月12日
 - ① 講義・演習
「新学習指導要領が目指す外国語科指導について」
講 師：岡崎 伸一 氏
(品川区立荏原第六中学校指導教諭)
 - ② 「港区英語発表会」運営方針確認
- ◇ 9月11日 授業研究
 - ① 授業者：加藤 尋子 教諭
(白金の丘中学校)
 - ② 授業内容：第3学年COLUMBUS 21
Book 3 Unit 4
A guest from Cambodia
研究部のテーマに基づく
授業実践と協議
- ◇ 11月6日 港区立中学校英語発表会
赤坂区民センターで、スピーチ、スキットを発表し、各校のネイティブ・ティーチャーも参観した。高陵中学校のスピーチが第1位となり、都大会に出場した。
- ◇ 1月15日 実践・研究のまとめ
次年度の研究部会運営方針の確認、全国英語教育研究大会三重大会、関東甲信地区中学校英語教育研究協議会東京大会、都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の調査結果説明会の報告
- ◇ 2月5日 幼・小・中合同研究発表会
上記の部会に加え、各校で校内研究会、アカデミー（幼・小・中一貫教育の組織）ごとの研究、国際科担当者会等で授業研究を実施し、実施内容や成果等を10校で共有し、授業改善に生かした。
(御成門中学校主任教諭 谷田啓 記)

新

宿

区

I. 研究主題

「新学習指導要領を踏まえた指導と授業改善」

- ① 小・中の連携を深めた連続性のある指導
- ② 具体的なコミュニケーションの目的や場面、状況を設定し、その中でやりとりを行うことを目指した指導

II. 研究の経過

- ◇ 5月8日 春季一斉部会
組織作り、研究テーマと活動計画決定
- ◇ 6月13日 第一回研究授業
授業者：風間 麻美 教諭
(新宿区立四谷中学校)
講 師：中村 貴美子 先生
(KIM's英語教育・英語研究所 所長)
- 「新学習指導要領を踏まえた授業改善」
- ◇ 8月1日 夏季一斉部会
 - ① 海外派遣研修報告（模擬授業）
報告者：佐藤 光正 教諭
(新宿区立牛込第二中学校)
 - ② 「新学習指導要領を踏まえた指導」
講 師：中村 貴美子 先生
(KIM's英語教育・英語研究所 所長)
- ◇ 8月9日
第35回新宿区中学校英語学芸発表会
スピーチの部・プレイの部開催
- ◇ 10月4日 秋季一斉部会
「新学習指導要領を踏まえた授業改善」
講 師：岡崎 伸一 指導教諭
(品川区立荏原第六中学校)
- ◇ 11月14日 第二回研究授業
授業者：宮本 司 教諭
(新宿区立落合第二中学校)
講 師：和泉 伸一 上智大学 教授
「新学習指導要領を踏まえた授業改善」
- ◇ 2月14日 第三回研究授業
授業者：松橋 翔 主任教諭
(新宿区立西早稲田中学校)
講 師：和泉 伸一 上智大学 教授
「新学習指導要領を踏まえた授業改善」
(牛込第二中学校教諭 佐藤光正 記)

文 京 区

I. 研究主題

「主体的・対話的な深い学びを引き出す
指導と評価の工夫 ～ICT機器を活用
して～」

II. 研究の経過

- ◇ 5月8日 一斉部会
組織作り、研究主題、授業者等の決定
- ◇ 11月1日
研究授業：音羽中学校
授業者：新井 正秀 教諭
内 容：ウォームアップでは、生徒に
質問を言わせる工夫がされ、
活発なやり取りが行われた。
教科書の指導では、本文のト
ピックをベースにして、即興
的な発話につながる活動が行
われた。協議会では、授業運
営やICT機器の活用法に関
して意見交換や情報共有を
行った。
- ◇ 11月8日・9日
全国英語教育研究大会への参加
砂田 健太 主任教諭（第三中学校）
小中高の各授業実演と分科会に参加し
た。『即興でやり取りができる生徒の育
成』の分科会では、small talk を継続さ
せるグルーピングや方略について様々な
手法を知ることができた。『トピックベ
ースの即興対話と評価』の分科会ではパ
フォーマンステストにおけるルーブリッ
クを用いた評価・指導の工夫について知
ることができた。
- ◇ 1月16日 区中研英語部会
会 場：第十中学校
①ワークショップ
「定期考査の作成」～コミュニカティブ
なテスト作りに向けて
講 師：工藤 洋路 先生
(玉川大学准教授)
新学習指導要領を念頭にした考査問題
の在り方について研修した。
- ②情報共有「小学校の英語科教科書」
講 師：石井 亨 主任教諭
(第十中学校)
(本郷台中学校主任教諭 浜内明 記)

台 東 区

I. 研究主題

「新学習指導要領全面実施における課題
と実践」

II. 研究の経過

- ◇ 4月10日 区中研総会・一斉部会
・組織づくり、研究主題の決定等
- ◇ 6月12日 授業研究
・ALTによる模擬授業、教材の共有化
授業者：Michael Youn 氏
(ボーダーリンク株)
単元名：NEW CROWN 1
Let's Talk 2
「今、何時？」
- ・第1回英語学芸会検討会
実施要綱案の検討
- ◇ 9月4日 第2回英語学芸会検討会
・英語学芸会実施要綱（細案）の検討
- ◇ 11月6日 研究授業・研究協議会
授業者：米谷 真由美 教諭
(御徒町台東中学校)
単元名：NEW CROWN 1 Lesson 8
School Life in the USA
講 師：西 正弘 先生
足立区教科指導専門員
第3回英語学芸会検討会
- ◇ 11月9日 第67回英語学芸会
会 場：台東区生涯学習センター
ミレニアムホール
参加校：台東区立中学校全校（7校）
内 容：RECITATION（6校）
SPEECH（21名）
- ◇ 11月15日 関ブロ東京大会
参加者：岸 卓郎 教諭（浅草中学校）
(御徒町台東中学校副校長 浦田哲男 記)

墨 田 区

- I. 研究主題
「基本表現の習得を徹底し、伝える力の育成と指導の工夫」
- II. 研究の経過
- ◇4月24日 区中研一斉部会
①役員選出：組織づくり
②研究主題：年間活動計画の検討
- ◇6月26日 区中研前期研究授業
①授業者：佐藤 恵美 主幹教諭
伊藤百合子 主任教諭
池端 雅樹 主任教諭
(吾嬭第二中)
単元名：1年
「Unit 3 わたしの好きなこと」
- ◇7月24・26日、8月27・29日
英語教育推進リーダー還元研修
講 師：小川 可奈子 主任教諭
(両国中)
- ◇8月27日 区中研英語科夏季研修会
①「効果的なアクティビティの紹介」に係る
講義及びワークショップ等
講 師：株式会社インタラックより
②実践紹介
報告者：佐藤 善明 教諭 (両国中)
③中学生海外派遣報告
報告者：大林 泰代 主任教諭
(墨田中)
- ◇11月28日 区中研後期研究授業
①授業者：村山 幸広 教諭
河内 勇人 教諭
高田 奈々 教諭 (錦糸中)
単元名：3年「Unit 6 Striving for a Better World」
②ラウンド学習について
報告者：高田 奈々 教諭 (錦糸中)
③区学力調査分析と指導のポイントについて
報告者：本田 耕大 教諭 (文花中)
風間 佳子 主任教諭
(豎川中)
辰田 りえ 教諭 (墨田中)
④都学力調査報告
報告者：伊藤 百合子 教諭
(吾嬭第二中)
- ◇2月12日 区中研 研究発表会
(すみだりバーサイドホール)
(錦糸中学校教諭 高田奈々 記)

江 東 区

- I. 研究主題
「4技能を統合した指導の工夫」
- II. 研究の経過
- ◇5月9日 区中研一斉部会
・内 容：活動計画、組織作り
- ◇6月19日 教科交流授業研究の日
深川会場
・授業者：白井 靖子 主任教諭
(深川三中)
・講 師：鈴木 知美 主幹教諭
(深川五中)
- 城東会場
・授業者：神戸 千恵 主任教諭
(大島西中)
・講 師：友田 和 主幹教諭
(第二南砂中)
- ◇11月6日 江東区英語学会
・会 場：江東区文化センター
・内 容：Speech、Play、Others
・Play優勝校：大島西中学校が
都学芸大会に出場
- ◇10月16日 教科交流授業研究の日
深川会場
・授業者：中山 敦子 主任教諭
(東陽中)
・講 師：武藤 剛 主任教諭
(有明西学園)
- 城東会場
・授業者：蓮間 輝道 教諭
(大島中)
白井 宏次 主任教諭
(二大中)
- ◇11月22日 区中研英語部研究授業
・授業者：大木田 陽子 主幹教諭
(辰巳中)
- ◇2月5日 区中研一斉部会
・内 容：一年間のまとめ
(大島中学校主任教諭 越智好美 記)

品川区

- I. 研究主題
「小中連携による英語教育の推進」
- II. 研究の経過
- ◇4月17日 研究テーマ、組織決定
 - ◇5月8日 研究授業【7年生】
授業者：神田 聖子 先生
(大崎中学校)
講師：太田 洋 先生
(東京家政大学教授)
 - ◇6月5日 分科会ごとの勉強会
 - ◇7月3日 研究授業【8年生】
授業者：石田 陽平 先生
(豊葉の杜学園)
講師：太田 洋 先生
(東京家政大学教授)
 - ◇9月4日 分科会による研究
 - ◇10月9日 研究授業【6年生】
授業者：市河 俊太郎 先生
(源氏前小学校)
講師：本田 勝久 先生
(千葉大学教授)
 - ◇11月5日 英語学習成果発表会
【中学校・義務教育学校後期課程】
 - ◇11月13日 校種別研究
【小学校・義務教育学校前期課程】
研究授業【1年生】
授業者：稲沢 千明 先生
(旗台小学校)
講師：杉浦 紀彦 先生
(品川区教育委員会指導主事)
【中学校・義務教育学校後期課程】
学習成果発表会の反省・情報交換
 - ◇12月4日 研究のまとめ
(全体会・分科会)
 - ◇1月15日 公開授業【6年生】
授業者：星野 理 先生
(芳水小学校)
 - ◇2月12日 研究発表会
講師：阿野 幸一 先生
(宮前小学校長 齊藤直彦 記)

目黒区

- I. 研究主題
「新学習指導要領に向けた主体的・対話的で深い学びにつながる指導の工夫」
- II. 研究の経過
- ◇4月17日 研究主題、研究計画、組織決定
 - ◇7月3日 主題に関する実践例の研究と情報交換
 - ①『新学習指導要領に向けた主体的・対話的で深い学びにつながる指導の工夫』に基づく各校の具体的な取組みについて(指導法や教材)
 - ②各校のICTの利用状況(課題、活用法)
 - ③現行の評価材料、評定方法についてと新評価方法(3観点)について(具体的な評価と適正な評価の在り方)
 - ④スピーチコンテストの実施及び各校の取組みについて
 - ◇10月9日 中学校研究授業
授業者：川崎 由紀恵 主幹教諭
(第十一中学校)
 - ◇11月6日 スピーチコンテスト
参加校：区内全9校
講師：菅原 喜一 先生
(神奈川県立大和西高等学校)
 - ◇1月15日 小中連携
小学校「児童が主体的に活動できる外国語活動・外国語科—自分の気持ちを伝えようとする児童の育成—」についての中・高学年分科会の発表と中学校「新学習指導要領に向けた主体的・対話的で深い学びにつながる指導の工夫」についての3校からの発表
 - ◇2月4日 研究発表会
講演：「未来を生き抜く教育ICTの活用」
講師：高橋 邦夫 様
(第十一中学校主幹教諭 川崎由紀恵 記)

大 田 区

I. 研究主題

「小学校の既習表現を活用した、発展的な言語活動」（1年目）

II. 研究の経過

- ◇4月17日 第1回部会（雪谷中）
部員自己紹介、組織編成、年間計画立案、部員名簿作成等
- ◇7月1日 研究授業（南六郷中）
授業者：小林 優紀 教諭
講 師：本多 敏幸 主任教諭
（千代田区立九段中等教育学校）
- ◇11月8日 連合学芸会（英語の部）
会 場：大田文化の森 大ホール
発 表：スピーチ40名、プレイ2校
（都英語学芸会出場者の決定）
- ◇12月1日 都英語学芸会
大田区の代表として、南六郷中学校の井上日菜さんがスピーチの部に出場。
- ◇2月5日 研究授業（志茂田中）
授業者：中川 智子 主任教諭
講 師：北原 延晃 主任教諭
（港区立赤坂中学校）
第2回部会（研究協議会后）
今年度の総括、情報提供等。
- ◇BULLETIN -OTA English Today-（紀要）を年間の研究記録として毎年発行している。今年度は第30号である。

III. 今年度の部員数：102名

（雪谷中学校長 和田文宏 記）

世 田 谷 区

I. 研究主題

「次期学習指導要領を見据えた指導の工夫」

II. 研究の課程

- ◇5月8日 世田谷区立中学校教育研究会 総会（船橋希望中）
- ◇6月5日 前期教育研究会（世田谷中）（授業研究会）
授業者：東 治夫 教諭
（世田谷中学校）
- ◇8月8日 夏期研修会（玉川中）
演 題：「英語によるコミュニケーション能力等育成のための環境づくり事業（ALTの外国語授業以外への配置）」についての取り組み実践例と課題についての話し合い
- ◇10月10日 授業研究会（玉川中）
授業者：小宮山 貴史 主任教諭
（玉川中）
研究協議：元両国高等学校附属中学校 杉本 薫 先生
- ◇11月6日 後期教育研究会
第30回世田谷区立中学校
英語スピーチコンテスト
会 場：砧区民会館（成城ホール）
- ◇11月19日
国公私立中学校授業交流会
授業者：黄 俐嘉 先生（緑丘中学校）
研究協議：ブリティッシュコロンビア大学
教授 久保田 竜子 先生
（瀬田中学校教諭 関根貴子 記）

渋谷区

I. 研究主題

「学習指導要領の内容を踏まえた指導と評価の充実」

II. 研究の経過

◇5月9日 渋谷区中学校教育研究会
英語部会

・組織編制、研究主題、研究授業校の決定、年間活動計画の決定

◇11月7日 渋谷区中学校研究会
英語部 研究会

・研究授業

授業者：石井 誠 教諭

会場：松濤中学校

内容：NEW HORIZON ENGLISH
COURSE 2

Unit5 “Universal Design”

講師：上智大学 言語教育研究
センター 特任准教授

Mr. Graham Mackenzie

III. まとめ

2021年度に全面実施される新学習指導要領について、今年度は指導と評価の充実について研究を行った。指導においては生徒の主体性を伸長し、評価についても指導内容と一体化されるように様々な意見が交わされた。今後も教員の学びがより効果的に生徒へ還元されるよう、継続して研究を行っていく。

(松濤中学校教諭 石井誠 記)

中野区

I. 研究主題

「主体的・対話的で深い学びを実現する授業の工夫」

II. 研究主題の検討と決定（4月）

◇研修会の企画・運営・実施（6月）

講師：玉川大学 工藤 洋路 准教授

内容：「新学習指導要領が求める学び
～主体的・対話的で深い学び～」

◇研究授業と講演会の企画（10月）

講師：中野区立中野東中学校

井上 智絵 主任教諭

内容：「主体的・対話的で深い学び」
を視点とした授業改善について

◇英語学芸会の企画・運営・実施（11月）

◇研究発表会及び講演会の運営・実施（2月）

講師：東京家政大学 太田 洋 教授

内容：「主体的・対話的な深い学びを
実現する授業の工夫」

III. まとめ

新しい学習指導要領に基づいて、さらに生徒が主体的に学び、対話的な深い学びがある授業について一年間通して研究してきた。今年度の学びを生徒に還元し、来年度もさらに実りのある研究会となることを期待したい。

(南中野中学校教諭 和田祐里子 記)

杉 並 区

I. 研究主題

「主体的・対話的で深い学びを目指した
授業実践と評価」

II. 研究の経過

- ◇4月10日 杉並教育研究会一斉部会
研究主題・組織・年間計画
- ◇8月23日 夏季ワークショップ
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向
けた授業改善等」
講 師：十文字学園女子大学教授
松岡 敬明 先生
「今後の英語教育における課題と具体的な
手立て等の実践」
講 師：Mr. Martin McDougall 氏
(株) interac 講師管理責任者
- ◇10月2日 子小中合同研究会
○会 場：杉並区立和泉学園
○授業者：新泉和泉小学校
竹内 淑香 教諭
和泉中学校
工藤 信輝 教諭
○単元名：What do you want to
watch? Unit 6 We Can! 2
○講 師：五十嵐 浩子 先生
国土館大学教授
- ◇11月9日 英語学芸発表会
スピーチ部門27人
ショー部門2グループの発表があった。
- ◇1月15日 杉教研研究発表会研究授業
授業者：阿佐ヶ谷中学校
齋藤 恭子 主任教諭
単元名：Daily Scene 4
「ウェブサイト」
New Horizon 1 (東京書籍)
講 演：「主体的・対話的で深い学び」
の授業実践
講 師：済美教育センター 外国語調査
研究員 石川 史子 先生
- ◇2月下旬 杉並区リスニングテスト
(西宮中学校教諭 岡山智勇 記)

豊 島 区

I. 研究主題

「生徒が意欲的に言語活動に取り組む授
業の工夫」～小中連携を踏まえて～

II. 研究の経過

- ◇4月15日 区中研一斉部会 (池袋中)
年間行事計画、組織・係分担、
研究主題決定、研修会、全英連・
関ブロ・英語学芸会の確認
- ◇8月20日 区中研夏季研修会
講 師：元都中英研副会長
野瀬 博 先生
- ◇11月13日 区中研一斉部会 (南池袋小)
小学校外国語科研究授業
授業者：山崎 俊介 教諭
単元名：Unit 6 What do you want to
watch?
オリンピック・パラリンピック
講 師：元都中英研副会長
野瀬 博 先生
- ◇11月15日 関東ブロック東京大会に参加
- ◇12月14日 RCフェスタに参加
参加校：西池袋中
様々な国の文化等を英語で紹介する発表
を行った。
- ◇1月15日 区中研一斉部会 (千登世橋中)
授業者：伊地知 義信 指導教諭
単元名：Welcome to Tokyo
- ◇2月5日 小中連携教育合同研究発表会
上記研究主題について発表
(巣鴨北中学校主幹教諭 青柳和典 記)

北

区

I. 研究主題

「実践的コミュニケーション能力の向上
を目指した授業の工夫」

II. 研究の経過

- ◇4月24日 北区教育研究会英語・外国語活動研究部小中合同部会・中学校部会
内 容：組織作り、研究目標、活動計画、情報交換

- ◇11月7日 連合英語学芸会
場 所：北区立滝野川会館

参加者：8校16名

最優秀生徒（稲付中3年）

東京都英語学芸大会に参加

- ◇11月20日 中学校研究授業

授業者：高杉 芳恵 主任教諭
（浮間中学校）

対 象：中学校2年

単 元：NEW HORIZON

English Course 2 Unit 6

“Rakugo in English”

講 評：北区外国語教育アドバイザー
坂下 孝憲 氏

- ◇12月1日：東京都英語学芸大会
英語スピーチ参加

- ◇1月15日 北区英語科教員研修会

講 演：「実践的コミュニケーション
能力の向上を目指した授業の
工夫」

講 師：東京家政大学院
教授 太田 洋 先生

- ◇2月4日 中学校研究授業

授業者：田中 歩 教諭（田端中学校）

対 象：中学校1年

単 元：NEW HORIZON

English Course 1 Unit 11

「思い出の一年」

講 評：北区外国語教育アドバイザー
宗方 隆三 氏
（堀船中学校校長 牧口弘一 記）

荒

川

区

I. 研究主題

「積極的にコミュニケーションを図ろう
とする態度の育成」

～世界に広がる荒川の英語教育～

II. 研究の経過

- ◇4月17日 組織作り、研究主題決定

- ◇7月3日 研修会 南千住第二中

内 容：「スピーチ及びレシテーション
の指導工夫」

講 師：聖学院大学人文学部欧米文化学科
准教授 東 仁美 先生

- ◇9月18日 研究授業 第五中学校

授業者：富岡 徹志 主幹教諭

橋本 佳世 主任教諭

加藤 涼 産休育休代替教員

「積極的にコミュニケーションを図ろうと
する態度の育成」

- ◇10月31日 連合英語発表会

サンパール荒川

- ◇11月14日 中小合同部会

研究授業：第四中学校

授業者：島田 朋美 主幹教諭

田中 徹哉 主任教諭

金城 智子 教諭

内 容：「小中連携を意識した指導」

講 師：玉川大学文学部

准教授 工藤 洋路 先生

- ◇1月16日 小中合同部会

研究授業：汐入東小学校

授業者：三富 哲雄 主任教諭

内 容：「自分の思いや考えを伝えよ
うとする児童の育成」

講 師：聖学院大学人文学部児童学科
客員教授 小川 隆夫 先生

（荒川区立原中学校教諭 三那川恵梨 記）

板 橋 区

I. 研究主題

「これからの時代に求められる『話すこと』について、発達段階に応じた指導の工夫」

II. 研究の経過

◇4月17日 区中研一斉部会

役員選出、研究主題・年間活動計画等の決定

◇6月3日 第一回研究授業（加賀中）

授業者：藤原 正篤 教諭

◇6月4日 教科専門官による模範授業（西台中）

授業者：服部 知恵 主任教諭

◇8月2日 夏季ワークショップ

内 容：「「話すことの指導」～練習からテストまで～」

講 師：豊島区立千登世橋中学校
指導教諭 伊地知 義信 先生

◇11月5日 「英語のつどい」

会 場：板橋区立アクトホール

出場校：17校（スピーチ、劇等）

◇11月6日 第2回研究授業

（上板橋三中）

授業者：進藤 絢子 教諭
ALT Mr. Jerome Wu

講 評：豊島区立明豊中学校
主幹教諭 小林 博子 先生

◇2月6日 区中研教職員研究発表会

○英語部会研究発表会（研究主題実践例）

①志村第一中

②志村第四中

③高島第一中

④西台中

（板橋五中 主任教諭 小酒井貴子 記）

練 馬 区

I. 研究主題

「基礎・基本の定着を図り、コミュニケーション能力の基礎を培う。また、令和3年度からの次期学習指導要領の全面実施に向けて、主体的・対話的で深い学びの実現をめざし、生徒の思考力・判断力・表現力を育てる授業を実践する。」

II. 研究の経過

◇5月8日 区中研一斉部会

◇6月12日 授業研究会 各ブロック
授業者：加藤 淳也 教諭（開進第三中）
木村 梓 教諭（貫井中）
都志 史也 教諭（大泉北中）
林 花菜子 教諭（関中）

◇8月1日・2日 夏期研修会

*「小学校との接続 - 音と文字との関わり・小学校における読み書きについて」

講 師：楠 志織 先生
（練馬区研修トレーナー）

Mr. Harry Cleveland
他ボーダーリンクALT

*「新指導要領の目指す英語力イメージにそった英語学習と評価のあり方」

講 師：投野 由紀夫 先生
（東京外国語大学大学院教授）

*「教室で「やり取り」を活発にするための工夫」

講 師：三浦 幸子 先生
（都留文科大学文学部
英文科教授）

*「新学習指導要領 英語の授業づくり」
講 師：本多 敏幸 先生

◇10月19日 英語学芸会
（練馬区立生涯学習センター）

都大会出場校：石神井西中
“The Bell of Atri”

◇11月6日 授業研究会（石神井西中）

授業者：川島 彩加 教諭

◇3月 区中研年報による紙上発表
英語教育推進リーダー中央還元研修
教員海外派遣研修の報告
教育課程編成資料作成委員会からの報告
（開進第三中学校教諭 加藤淳也 記）

足 立 区

I. 研究主題

「足立スタンダードを活用した授業づくりを目指して～新学習指導要領を踏まえて～」

II. 研究の経過

- ◇4月17日 一斉部会（千寿桜堤中）
 - ・研究テーマ、事業計画、組織の確認
- ◇7月10日 研修会
 - ・テーマ：「パフォーマンステストの効果的実践」
 - ・発表者：伊藤 由太 教諭（千寿青葉中）
- ◇9月18日 小中合同研修会（第十中）
 - ・講演：「パフォーマンステストの効果的実践」
 - ・講師：東海大学教授 長沼 君主 先生
- ◇10月16日 小中合同研修会（新田小）
 - ・授業者：中橋 美紀 主任教諭
 - ・講師：文部科学省 初等中等教育局 視学官 直山 木綿子 先生
- ◇10月24日 連合英語学芸会（西新井文化ホール）
 - ・スピーチの部優勝 第五中学校
 - ・プレイの部 優勝 新田中学校
- ◇12月5日 研究授業
 - ・授業者：伊藤 由太 教諭（千寿青葉中）
- ◇1月29日 一斉部会（第十中）
 - ・講演：「パフォーマンステストの効果的実践」
 - ・講師：文部科学省 初等中等教育局 教科調査官 山田 誠志 先生（第十中学校主幹教諭 泉昌史 記）

葛 飾 区

I. 研究主題

「思考力・判断力・表現力」を育む段階的な指導の工夫

II. 研究の経過

- ◇4月4日 ALT導入全校説明会、割当調整会議
- ◇5月8日 葛中研全員部会 事業報告、会計報告、役員選出、事業計画、予算案、情報交換
- ◇7月9日 第1回研究授業 授業者：山本 由紀 主任教諭（本田中） 講師：日臺 滋之 先生（玉川大学文学部英語教育学科教授）
- ◇11月6日 第2回研究授業 授業者：大島 良一 教諭（葛美中） 講師：杉本 薫 先生（元東京都立両国高等学校 附属中学校 教諭）
- ◇11月9日 第34回葛飾区立中学校英語スピーチ&プレイコンテスト（於：かめありリリオホール） 暗唱（3名）プレイ（3校）スピーチ1（11名）スピーチ2（24名）参加、スピーチ2優勝者（奥戸中3年）都大会出場。
- ◇2月3日 第3回研究授業 授業者：平入 聡 教諭（金町中） 講師：石鍋 浩 先生（明海大学教授）
- ◇3月26日（予定） 役員会：年度末反省、次年度活動計画、名簿作成、情報交換（立石中学校主幹教諭 河野光志 記）

江戸川区

I. 研究主題

「コミュニケーション能力を養う指導方法の工夫」

II. 研究の経過

◇5月8日 総会・役員会

- ・組織づくり
- ・活動目標、年間活動計画の検討・作成

◇6月5日 研究授業・協議会

授業者：水嶋 美優 先生
(小岩一中)

- ・令和元年度組織・年間活動計画決定

◇8月1日・8月2日・8月5日

英語教育推進リーダー還元研修
講師：三柴 佳恵 先生
(葛西二中)

◇12月10日 研究授業・協議会

授業者：宮本 知子 先生
(小岩二中)

◇2月5日 研究授業・講演会

授業者：待井 以満里 先生
(小岩四中)

講演会

講師：山田 誠志 様
(文部科学省 初等中等教育局
教育課程課教科調査官
情報教育・外国語教育課
教科調査官
国立教育政策研究所
教育課程研究センター
研究開発部教育課程調査官)

(小岩第三中学校副校長 鈴木訓文 記)

八王子市

I. 研究主題

「やり取りを通して知識を深めていくための授業作り及び指導方法の改善」

II. 活動の経過

◇5月13日 役員会

主題設定、組織、活動計画確認

◇7月11日 2・3年次研修(陵南中)

授業者：宮内 瞭 教諭
講師：佐藤 ひろみ 校長
(松が谷中)

◇11月6日 一斉部会 研究授業

1ブロック

授業者：後藤 美由紀 教諭(第一中)
講師：山下 喜世子 先生(元第五中)

2ブロック

授業者：中山 文 教諭(楢原中)
講師：堀内 明 統括指導主事
(都教育庁指導企画課)

3ブロック

授業者：山口 あずさ 教諭(柗田中)
講師：福井 正仁 教授(玉川大学)

4ブロック

授業者：小川 史哲 主任教諭
(別所中)

講師：石鍋 浩 教授(明海大学)

◇2月18日 2・3年次研修(別所中)

授業者：小川 史哲 主任教諭
(別所中)

講師：佐藤 ひろみ 校長
(松が谷中)

(第五中学校副校長 小島幸子 記)

立 川 市

I. 研究主題

「主体的・対話的な学びを生かした生徒の育成」

II. 研究の経過

◇5月8日 立中教研一斉部会

研究内容・活動計画決定

◇8月23日 夏季研修会

- ・10月研究授業に向けての指導案検討
- ・「主体的・対話的な学びを生かした生徒の育成」を目指して、授業を行う上で、疑問や課題等についてのアンケートを実施。

◇10月2日 研究授業

授業者：柳町 啓次 教諭

(立川市立立川第六中学校)

対 象：3年AB組

内 容：TOTAL ENGLISH Lesson 4
Speech—A Man's Life
in Bhutan

講 師：宮崎 大樹 主任教諭

(八王子市立ひよどり山中学校)

講 演：「生徒の主体的・対話的な学びを意識した授業」

◇2月12日 立中教研一斉研究発表会

III. 成果と課題

夏季研修会では、グループごとに研究授業と同じ単元の指導案を作成し、タブレットを活用して発表を行った。指導方法やアイデアの共有を行うと共に研究主題について理解を深めた。

生徒の主体的な学びを引き出すためには、学習したことを活用しようという生徒自身の意欲や知識のインプットが必要である。学習意欲の向上や維持に効果的な指導方法及び教材研究をいかに実施していくかが課題である。

(立川第六中学校主幹教諭 常盤直子 記)

武 蔵 野 市

I. 研究主題

「コミュニケーションを図る資質・能力を育成する指導の工夫～CAN-DOリストの共有と分析を通じた小中連携～」

II. 研究の経過

◇4月17日 武教研総会・組織編成

◇5月15日 活動計画、研究主題検討

◇6月5日 小学校部会 (リスト作成)

◇7月3日 小学校部会 (集計・考察)

◇10月9日 研究授業 I

授業者：渡邊 実佳 教諭

(武蔵野市立第四小学校)

対 象：第5学年2組

単 元：We Can! 1 Unit 2

When is your birthday?

講 師：小林 新歌 先生

(葛飾区教育委員会指導課指導主事)

◇11月6日 小中部会 (発表の検討)

◇12月4日 小学校部会 (発表の検討)

◇1月15日 研究授業 II

授業者：伊藤 夕香 主幹教諭

井手 久美 教諭

中村 紀子 教諭

(武蔵野市立第四中学校)

対 象：第1学年1、2組

単 元：New Crown 1 Lesson 7

“Sports for Everyone”

協 議：研究発表に向けて、調査の結果分析と発表内容の検討。

III. 成果と課題

昨年度と同様のテーマで研究を続け、実際にCAN-DOリストの調査を実施、結果の分析を行うことで市内生徒の実態が見えた。今後はまだ定着していないと思われる項目を強化するための指導の工夫について、小中で共有していくことが今後の課題である。

(第三中学校主任教諭 川邊真梨子 記)

三 鷹 市

I. 研究主題

「発達段階に応じたコミュニケーション能力の育成～新学習指導要領を見据え、9年間の指導を見通して～」

II. 研究の経過

- ◇4月11日 組織決めと年間活動計画
- ◇5月15日 講演会
- ◇6月12日 小・中合同研究授業
単元名：Program 4 リサイクル活動
授業者：大西 泰 主任教諭
(第二中学校)
講 師：森田 剛 先生
(東京都教職員研修センター
授業力向上課統括指導主事)
- ◇9月11日 東台小学校にて
(小) 内海教諭による研究授業
単元名：Unit 5 My Summer Vacation
授業者：内海 竜太 教諭
(東台小学校)
講 師：金森 強 教授(文教大学)
(中) インタラックによるワークショップ
テーマ：「授業実践活動例」
講 師：Martin Mcdougall 先生
- ◇10月9日 小・中合同研究授業
単元名：「This is me. みんなのできることを集めて
『できることの木』を作ろう」
授業者：今西 佑 教諭
(第七小学校)
講 師：粕谷 恭子 教授
(東京学芸大学)
- ◇1月15日 高山小学校にてワールドカフェ形式による協議会
テーマ：「新学習指導要領を見据えた9年間の指導のあり方」
講 師：三鷹市立高山小学校長
吉村 達之
- ◇2月12日 今年度の研究のまとめ
(第二中学校主任教諭 大西泰 記)

青 梅 市

I. 研究主題

「より良い授業の工夫と創造（主体的・対話的に学ぶ意欲態度の育成）」
～小・中学校の連携を深め、生徒の英語の運用能力・理解力を高めるために～」

II. 研究の経過

- ◇5月13日 中教研全体会・部会
今年度は「英語教育推進リーダー中央研修還元研修」と連携し研修を実施した。
- ◇8月28日 一斉教科部会
【研修内容】講義・演習
・「読むこと」に係る言語活動
・指導計画作成上の留意点
【講師】青梅市立吹上中学校
主任教諭 近藤 正浩
- ◇10月23日 一斉研究授業
【研修内容】講義・演習
・「聞くこと」に係る言語活動
【講師】青梅市立吹上中学校
主任教諭 近藤 正浩
(西中学校副校長 廣瀬尊貴 記)

府 中 市

I. 研究主題

「実践的な指導力の向上～コミュニケーション能力の向上を目指して～」

II. 研究経過及び内容

◇4月17日 部員総会

部長等役員選出、研究主題・年間研究計画検討、授業研究校の確認

◇5月8日 ワークショップ①

授業で実践できるコミュニケーション活動①

講 師：アンドリュー・スピアー 氏

◇7月23日～25日 「府中市版英語村」

“Cooking in English”

英語を使って調理実習を行い、外国人と生徒の交流の指導・助言

◇9月11日 研究授業・協議会

授業者：岡村 将樹 教諭（六中）

◇10月9日 ワークショップ②

授業で実践できるコミュニケーション活動②

講 師：アンドリュー・スピアー 氏

◇11月13日 ワークショップ③

授業で実践できるコミュニケーション活動③

講 師：アンドリュー・スピアー 氏

◇1月15日 研究授業

授業者：出頭 久美子 教諭（七中）

講 師：内田 富男 先生

（明星大学教育学部教授）

◇2月5日 府教研研究発表会

◇3月11日 研究のまとめ

次年度の研究主題や研究内容の検討

（府中第十中学校教諭 蒔賞子 記）

昭 島 市

I. 研究主題

「パフォーマンステスト（やりとり）を意識した授業実践に向けて」

II. 活動報告

◇4月17日 部員総会

内 容：研究課題設定、組織作り

◇5月15日 協議会

内 容：パフォーマンステスト（やりとり）に向けた各校の取組について

◇10月2日 研究授業・協議会

内 容：パフォーマンステスト（やりとり）の指導と評価

講 師：工藤 洋路 先生

（玉川大学准教授）

◇1月15日 講演

内 容：中学校英語教育におけるパフォーマンステストの指導と評価

講 師：中谷 愛 先生

（東京都教職員研修センター

統括指導主事）

（拝島中学校教諭 虎口真斗 記）

調 布 市

I. 研究主題

「英語科における表現力の育成
～話すことを通して～」

II. 研究の経過

- ◇5月8日 一斉部会
会 場：第三中学校
内 容：研究主題案・予定の提示
組織作り
- ◇6月5日 一斉部会
会 場：調布中学校
内 容：研究主題決定
全国学力調査 スピーキングテ
ストの課題等についての考察と
その共有
- ◇10月9日 研究授業・協議会
(小学校英語活動部参加)
会 場：第五中学校
授業者：久城 美寿希 教諭
講 師：福井 正仁 先生
(玉川大学教師教育リサーチ
センター客員教授)
- ◇1月15日 一斉部会
会 場：調布中学校
内 容：「話すこと」の指導における
AET (ALT) の役割と活用、
またその課題
- ◇2月5日 研究発表会
会 場：くすのきホール
(調布中学校主任教諭 深澤久木 記)

町 田 市

I. 研究主題

「次期学習指導要領を見据えた『話すこと
(発表とやりとり) の指導と評価』」

II. 研究の過程

- ◇4月17日 第一回一斉部会
会 場：町田市立第二中学校
内 容：研究主題の設定
年間活動計画
組織作り
- ◇10月30日 第二回一斉部会
会 場：町田市立第一中学校
内 容：講演
「話すこと (発表とやりとり)
～指導と評価～」
講 師：東京学芸大学名誉教授
金谷 憲 先生
- ◇11月21日 研究授業・協議会
会 場：町田市立木曽中学校
授業者：横山 牧子 主任教諭
- ◇1月29日 研究発表会
会 場：町田市立鶴川第二中学校
内 容：研究授業・協議会
授業者：大竹 菜穂子 教諭
(南成瀬中学校教諭 沖山三咲 記)

小 金 井 市

- I. 研究主題
「新学習指導要領に向けて
OUTPUT活動の実践を目指す」
- II. 研究の経過
- ◇4月17日 一斉部会
 - ・組織づくり
 - ・研究主題の検討とそれに基づく年間計画の設定
 - ◇6月5日 市教研部会
 - ・定期テスト問題を持ちより、意見交換
 - ・評価・評定の評価方法の工夫について
 - ◇10月9日
 - ・研究授業
第1学年 Lesson 5
Our New Friend
授業者：小金井第一中学校
樋口 明香里 教諭
西巻 美雪 主任教諭
講 師：小金井市立南中学校
校長 塩原 真一 先生
 - ・研究協議
主体的・対話的で深い学びにつなげる
指導の工夫について
少人数・習熟度別指導について
 - ◇11月6日 市教研部会
 - ・教材研究
「Chromebook」の活用について
British Councilの教員向けサイトの
活用、Chromebookを用いた授業に
ついて意見交換
 - ◇1月15日 市教研部会
 - ・講演会
講 師：東京学芸大学附属小金井中学校
教諭 萩原 真也 先生
「小金井中学校での実践」
東京学芸大学教授
馬場 哲生 先生
「英語発音の実際と指導」
 - ◇2月5日 研究発表会
(小金井第一中学校主任教諭 西巻美雪 記)

小 平 市

- I. 研究主題
「Speaking力の向上～4技能を意識した
授業の工夫～」
- II. 研究の経過
- ◇4月24日 教科等研究会総会
第1回英語部会
組織づくり
研究主題の設定
研究計画の作成
 - ◇7月23日 夏季研修会
(小平第二中学校)
講 師：太田 洋 先生
(東京家政大学大学院教授)
内 容：・Speaking力をつけるには
どうしたらいいのかに対する
視点を広げる
・スピーキングのメカニズム
・新出文法事項を使ったスピー
キング指導のポイント
・中間指導
・先生の役割
 - ◇9月11日 授業研究
会 場：小平第五中学校
授業者：上水 謙治 主任教諭
講 師：本多 敏幸 指導教諭
(千代田区立九段中等教育学校)
内 容：NEW CROWN 1 Lesson 4
GET Part 2
 - ◇英語教育推進リーダー還元研修会
会 場：小平第五中学校
日 程：第1回8月26日
第2回8月27日
第3回12月26日
第4回3月26日
会 場：小平第三中学校
日 程：第1回5月14日
第2回6月28日
第3回7月31日 9:30～
第4回7月31日 13:30～
第5回8月12日 9:30～
第6回8月12日 13:30～
第7回9月27日
(小平第二中学校教諭 杉本康子 記)

日 野 市

I. 研究主題

「Input-Intake-Outputのつながりを意識した授業デザインと実践」
～新学習指導要領の実施に向けて～
(昨年度からの継続主題)

II. 研究の過程

- ◇5月8日 中教研総会：組織作り
- ◇6月5日 研究授業①
授業者：馬場 智子 教諭
(日野第二中)
NC1 L3 GET1 I Like Soccer
目 標：〔動詞を使ってプレゼントを紹介する〕
- ◇7月3日 研究授業②
授業者：徳田 大俊 教諭
(日野第四中)
NC3 L3 Rakugo Goes Overseas
目 標：〔本文の内容を把握して、その内容を英語で話すことができる〕
- ◇9月4日 研究授業③ 小中連携研究
授業者：角田 雄紀 教諭 (三沢中)
NC1 L5 GET1 Our New Friend
目 標：〔Who is…?を使ってクイズを作ろう〕
講 師：大山 明 先生 (教師道場教授)
- ◇10月10日 研究授業④
授業者：丹所 篤 主任教諭 (三沢中)
NC2 L5 Ululu USE Read
目 標：〔初見の英文の概要を掴み、その内容をペアで伝えあうことができる〕
講 師：相沢 秀和 指導教諭
(国分寺第一中)
- ◇11月6日 研究授業⑤ 小中連携研究
授業者：森久 謙二郎 教諭 (平山小)
We Can 2 Unit 7 My Best Memory
目 標：〔思い出の行事について尋ねたり、答えたり、書いたりすることができる〕
講 師：阿部 梢 先生
(多摩教育事務所指導主事)
- ◇11月13日 研究授業⑥ 小中連携研究
授業者：小川 志穂 教諭
(日野第五小)
Let's Try 1 Unit 9 Who are you?
目 標：〔自分の好きな動物を友達と伝え合おう〕
(日野第二中学校主任教諭 佐藤真雄 記)

東 村 山 市

I. 研究主題

「言語活動の充実～即興で表現するためのinputとoutputについて考える」

II. 研究の経過

- ◇4月10日 統一部会
(東村山市立久米川小)
- ◇5月8日 定期総会 (中央公民館)
- ◇6月5日 英語教育推進リーダー中央研修
還元研修について
研究主題に基づく実践交流
～帯活動の取り組み～
(東村山第四中学校)
- ◇7月3日 研究主題に基づく実践交流
(東村山第四中学校)
- ◇8月6日他 中英研ワークショップ参加
- ◇9月4日 研究主題に基づく実践交流
(東村山第四中学校)
- ◇10月2日 マイクロティーチング・
研究協議
ALT委託業者選定について
(東村山第四中学校)
- ◇11月6日 講演会
『授業のバージョンアップ』
講 師：国際エデュテイメント協会
谷口 幸夫 先生
(東村山第四中学校)
- ◇1月15日 研究主題に基づく実践交流
研究課題の達成状況のまとめ
(東村山第四中学校)
- ◇2月12日 研究発表会 (中央公民館)
- ◇3月4日 今年度のまとめ、次年度の計画
ALT業者との実践例検討
(東村山第四中学校)
(東村山第四中学校主任教諭 向後ともみ 記)

国 分 寺 市

I. 研究主題

「新学習指導要領を踏まえた指導の工夫」

－生徒の主体的な学びを通して－

II. 研究の経過

◇4月17日 一斉部会

内 容：研究主題・年間計画の検討

◇6月5日 小中合同英語部会

内 容：小学校における英語活動について

授業研究

◇10月9日 研究授業 ほか

授業者：第一中学校

相沢 秀和 指導教諭

武田 裕江 主任教諭

池本 心和 教諭

内 容：NEW CROWN

ENGLISH 1 SERIES Book 1

Lesson 5 Our New Friend

講 師：根岸 雅史 先生

(東京外国語大学)

◇1月15日 研修会

研究のまとめ

III. 成果と課題

・より主体的な学びを目指した授業の工夫を授業研究や情報交換を通して深めることができた。

・小中合同での活動機会を設けることによって情報交換をしたり、要望を出し合ったりして、それぞれの外国語教育についてより深く理解することができた。また、率直に意見を出し合うことにより、それらを意識しながら授業を計画し、授業改善につなげることができたので定期的に小中合同の活動機会を設けていきたい。

・「知識の学習」から「技能の獲得」への授業転換をさらに進める。

(第一中学校教諭 池本心和 記)

国 立 市

I. 研究主題

「コミュニケーション能力の充実をはかるための自己表現力の育成」

II. 研究の過程

◇4月17日 全体会及び部会

(組織編成・主題設定)

◇5月29日 部会

(6月研究授業指導案検討)

◇6月26日 研究授業 研究協議

指導・講評

授業者：国立第六小学校

教諭 北上 滋樹

ALT 山田 悦子

講 師：東京都教職員研修センター

研修部専門教育向上課

統括指導主事

中谷 愛 先生

◇7月23日 部会

(6月研究授業の振り返り・11月公開授業指導案検討)

◇9月4日 部会

(11月公開研究授業指導案検討)

◇10月23日 公開授業

(他教科・他領域参観)

◇11月6日 公開授業 研究協議

指導・講評

授業者：国立第三中学校

教諭 小笠原 大輔

講 師：小平市教育委員会

教育施策推進担当課長

兼統括指導主事

荒木 忍 先生

◇1月15日 研究授業の振り返り・

研究紀要作成協議

(国立第一中学校教諭 樋口はる菜 記)

福 生 市

I. 研究主題

「『話す、書く』ことができることを目的とした授業づくり」

—学習指導要領を元に、見方・考え方を働かせ、主体的・対話的に学ぶ—

II. 研究の経過

- ◇4月17日 年間計画の作成
研究主題設定
- ◇6月26日 外国語活動研究授業参観
(福生第五小学校)
- ◇8月20日 夏季研修会
講 師：壽原 友理子 先生
(東京都立両国高等学校付属中学校)
- ◇9月4日 研究授業 (福生第一中学校)
授業者：太田 菜穂子
内 容：NEW CROWN 2
Let's Read 1 “A Pot of
Poison”
講 師：市川 拓治 先生
(福生第二中学校副校長)
- ◇1月15日 外国語活動研究授業参観
(福生第二小学校)
英語科部会
- ◇2月12日 福教研報告会
(福生第二中学校教諭 豊原成一郎 記)

狛 江 市

I. 研究主題

「対話力を重視した実践的な学びを目指して」

II. 研究の経過

- ◇4月 英語科部会
- ◇5月 一斉部会 (定期総会)
- ◇7月 部長会
- ◇研究授業・研修会 (狛江第一中学校)
○テーマ
「対話力を重視した実践的な学びを目指して」
○授業者：福長 あおい 主任教諭
○内 容：NEW CROWN 1
Let's Talk 4 買い物しよう
○講 師：玉川大学教授
日臺 滋之 先生
- ◇11月 部長会
- ◇2月 研究活動報告会
- III. 成果と課題
 - ・新学習指導要領に基づいた評価方法
 - ・小学校英語との連携と共通理解
 - ・即興についての視点(狛江第二中学校主任教諭 小林小百合 記)

東 大 和 市

I. 研究主題

「即興的に話す力をつける指導法の工夫」

II. 研究の経過

◇5月15日 一斉部会（五中）

研究主題の検討、活動計画の作成

◇7月25日 研修会（三中）

「スピーキング力を高める指導法について」

講 師：BORDERLINK, INC

◇10月9日 研究授業（三中）

授業者：津野地 純一 教諭

第2学年 Talking Time 道案内

講 師：東京都教職員研修センター

指導主事 白川 智恵子 先生

◇11月13日 部会（三中）

「即興的に話す力を育てる指導法」の実践報告

スピーキング力を高める為には繰り返しの練習が必要であり、教科書のリーディングやQ&Aが有効であることを学んだ。また、日々行っているスピーキング活動により実生活に近い場面設定や必然性を持たせる工夫が生徒の意欲を高め、効果的であることを確認することができた。

（第二中学校教諭 金井史子 記）

清 瀬 市

I. 研究主題

全体

「確かな学力を育成するとともに、学びへの関心や意欲を高めるための指導方法の工夫」

英語部会

「スピーキング能力を伸ばす指導の工夫」

II. 研究の経過

◇4月17日 教育研究会

会 場：清瀬中学校

内 容：研究主題の設定、年間活動計画の作成、情報交換

◇10月30日 教育研究会

会 場：清瀬第四中学校

授業者：福田 聡子 主任教諭

第1学年 Lesson 7

Sports for Everyone

canの肯定文

講 師：大東文化大学 特任准教授

三野宮 春子 先生

内 容：研究授業講評、研究協議

講 義：

- ・少人数授業。ルーティン活動（Hello Communication→25秒即興スピーチ）を通して、canを使って生徒が活発に会話練習を行っていた。教科書の内容を、工夫された「音読シート」を活用し、ほとんど日本語を介さず理解につなげていた。
- ・KJ法による研究協議を行った。講義ではスピーキングで大切な3つの要素（正確さ、流暢さ、意味）について学んだ。活動例を紹介していただき、指導の参考になった。

◇2月12日 研究発表会

会 場：けやきホール

内 容：各部会の研究成果の発表

（清瀬中学校主任教諭 渡邊直子 記）

東久留米市

I. 研究主題

「生徒が主体的に取り組み、学ぶことができる授業の研究」

II. 研究の経過

◇5月17日 市授業改善研

研究主題・情報交換

◇7月3日 研究授業

中央中学校1年生

授業者：伊藤 あすみ 教諭

講師：津田塾大学学芸学部

英語英文学科 吉田 真理子 教授

◇9月11日 研究授業

神宝小学校6年生

授業者：高橋 佳子 主任教諭

講師：教育庁指導部指導企画課

佐々木 真吾 国際教育担当指導主事

◇11月27日 研究授業

東中学校3年生

授業者：木村 穂奈美 教諭

講師：小学校英語指導者認定協議会

松香 洋子 理事

◇2月12日 市授業改善研

研究報告・発表会

◇研究のまとめ

(1) 言語活動を充実させるための教科横断的な活動作りの必要性を英語科から発信し、生徒自身や社会全体の問題点を考えていく広い視点をもたせることのできるカリキュラムを学校全体でつくっていくことが大切である。

(2) 「深い学び」につなげていくために、身近なテーマから段階的に大きなテーマに慣れさせていき、各テーマにおける対立点を意識して考えさせることにより考えを深めさせていく方法も効果的である。

(中央中学校主幹教諭 三田村規子 記)

武蔵村山市

I. 研究主題

「小学校の英語教科化をふまえた授業実践～場面に応じたスピーキングを中心として～」

II. 研究の経過

◇4月17日 中教研一斉部会

・研究主題設定

・組織編成

・年間計画 等

◇11月6日 第二回部会

研修会及びワークショップ

講師：千葉大学教育学部附属中学校

蜂巢 桂 教諭

テーマ：「小学校の英語教科化を踏まえた授業実践～場面に応じたスピーキングを中心として～」

◇2月5日 第三回部会

研究授業及び協議会

武蔵村山市第三中学校1年生

授業者：高橋 延嘉 教諭

加藤 悠 教諭

田村 耕子 教諭

単元名：ONE WORLD 1

Lesson 7 Task

・自分でオリジナルキャラクターを考えて、can等の表現を用いて紹介文を書き、人に伝える。

(第三中学校教諭 田村耕子 記)

多 摩 市

- I. 研究主題
「スピーキング力の向上を目指した
授業改善」
- II. 研究の経過
- ◇5月8日 多摩市中教研一斉部会
場 所：多摩市聖ヶ丘中学校
内 容：研究主題と年間計画の決定
- ◇6月5日 ワークショップ
場 所：多摩市立青陵中学校
内 容：グループ演習および指導・講評
講 師：国士舘大学
子どもスポーツ教育学科
五十嵐 俊子 教授
- ◇11月13日 研究授業
場 所：多摩市立聖ヶ丘中学校
内 容：授業観察と研究協議
授業者：多摩市立聖ヶ丘中学校
藤本 彩 主任教諭
講 師：調布市立第五中学校
加藤 真由子 指導教諭
- ◇2月12日 研究発表会
場 所：多摩市立和田中学校
内 容：市内研究指定校による
研究成果の発表
(青陵中学校教諭 白取良子 記)

稲 城 市

- I. 研究主題
「主体的にコミュニケーションを図ろう
とする児童・生徒の育成」
- II. 研究の経過
- ◇5月8日 ブロック協議会
小・中ブロックに分かれての情報・意見
交換
- ◇6月13日 ブロックでの研修会
小学校部会：「英語指導の基本」
中学校部会：「教科書のより良い活用」
- ◇8月22日 授業研究(指導案検討)
小・中ブロックに分かれて研究授業の
指導案を検討
- ◇9月11日 研究授業
授業者：中島 亜沙
(稲城第四中学校)
学 年：1学年
単 元：Let's Talk 4 買い物をしよう
New Crown English Series 1
講 師：吉岡 順子 指導教諭
(町田市立町田第一中学校)
- ◇10月9日 研究授業
授業者：平野 智裕
(稲城第六小学校)
学 年：6学年
単 元：My Best Memory
講 師：倉住 修 先生
(白百合女子大学)
- ◇11月13日 研究授業
授業者：神山 佐央里
(稲城第六小学校)
学 年：4学年
単 元：Unit 7 What do you want?
講 師：倉住 修 先生
(白百合女子大学)
- ◇1月15日 研究のまとめ
(稲城第一中主任教諭 長澤康彦 記)

あきる野市

I. 研究主題

「新学習指導要領の実施に向けて」
～生徒の英語理解力・表現力を向上させるための指導方法～

II. 研究の経過

◇6月5日 研究授業 I

会場：五日市中学校
授業者：高岡 雅人 主任教諭
授業内容：NEW HORIZON 3 Unit 2
講師：瑞穂町立瑞穂中学校
副校長 中村 祐子 先生

◇8月20日 授業力向上研究会

会場：五日市中学校
内容：「研究テーマにおける各校の取り組みについて」

◇10月2日 研究授業 II

会場：東中学校
授業者：和久利 幸子 主幹教諭
串橋 美咲 教諭
水船 祥太郎 教諭
授業内容：NEW HORIZON 2 Unit 5
講師：羽村市立羽村第一中学校
副校長 岩崎 浩示 先生

◇1月15日 研究授業 III

会場：西中学校
授業者：三木 聡 教諭
授業内容：Daily Scene 5 電話（3年）
講師：あきる野市立西中学校
副校長 高橋 康則 先生

III. 成果と課題

新学習指導要領の概要及びその動向を学ぶことができた。各校で意見交換し、研究主題を深めた。「発表」「やり取り」「即興性」と細分化された表現活動を創り上げるために、各校が授業実践を継続していく。また、都立入試で導入されるスピーキングテストに対する準備を進める。

（東中学校主幹教諭 和久利幸子 記）

西 東 京 市

I. 研究主題

「コミュニケーション活動のさらなる充実～新学習指導要領・小中一貫を見据えて～」

II. 研究の経過

◇5月15日 令和元年度西東京市立 中学校教育研究会

- ①定期総会及び英語部会
- ②各校自己紹介
- ③今年度の活動方針と活動内容設定

◇11月13日 研究授業と研究協議

会場：保谷中学校
研究授業：2年B組教室
授業者：鈴木 守 教諭
Matthew Fellows
〈team teaching〉
授業内容：NEW CROWN 2
Let's Talk 6
「電話をしよう」
講師：元都立両国高等学校附属中学校
杉本 薫 先生
講演：「コミュニケーション活動のさらなる充実～指導と評価を繰り返しながら」

今年度の成果と課題：

今年度は、昨年度のテーマを継承しつつも、指導と評価の在り方について考えていくために「コミュニケーション活動のさらなる充実～新学習指導要領・小中一貫を見据えて～」をテーマとして研究を行った。11月の一斉部会では、保谷中学校の鈴木教諭による授業を通して、コミュニケーション型の授業及び評価の仕方・規準について議論を行った。また、その後の講演では、元都立両国高校附属中学校の杉本先生より、同テーマについての助言をいただいた。来年度は、今年度の研究会で習得したことをもとに、さらに実践を通して新しい授業について研究活動を行っていきたい。

（田無第一中学校主任教諭 長澤利尚 記）

羽村市・西多摩

I. 研究主題

「即興性を高める授業の披露」

II. 研究の経過

- ◇5月8日 一斉部会
会 場：平井中学校
内 容：本年度の研究主題の決定
役員選出
- ◇8月22日 夏季研修会
会 場：大久野中学校
内 容：中学生に即興性を高める授業の
体験授業や講演
講 師：帝京大学講師
奥住 桂 先生
- ◇10月30日 一斉教科部会
会 場：平井中学校
内 容：研究授業 協議会
授業者：平井中学校
梶山 元貴 教諭
講 師：帝京大学講師
奥住 桂 先生
- ◇12月4日 教科部会
会 場：平井中学校
内 容：初任者研究授業見学
授業者：清水 誠 教諭
- ◇2月5日
会 場：羽村市生涯学習センター
ゆとろぎ 小ホール
内 容：全体研修会・記念講演

III. 成果と課題

成果は、夏季研修会や教科の一斉部会で、即興性を高める授業実践を教師自身が学び、研究授業で見学をすることができた。

課題は、即興性を高めるために4技能の分野に分かれて実践する授業があったが、日々の授業で継続的に実践できるかが課題であった。

(大久野中学校主任教諭 荒川隆博 記)

大 島 町

I. 研究主題

「小学校英語教育と中学校英語教育の連携」—小中のスムーズな接続と基礎学力の定着—

II. 研究の経過

- ◇4月18日 大島町教育研究会
①平成30年度活動報告
②平成31年度組織作り
研究主題・年間活動計画の検討
- ◇5月29日 教育研究会英語部会
会 場：大島町立つばき小学校
①研究授業
対 象：第3学年
授業者：豊田 秀夫 先生
②研究協議
③情報交換
- ◇10月9日 教育研究会英語部会
会 場：大島町立第一中学校
①研究授業
対 象：第1学年
授業者：松原 陽子 先生
②研究協議
③情報交換
- ◇11月27日 教育研究会英語部会
会 場：大島町立第三中学校
①研究授業
対 象：第3学年
授業者：中野 峻佑 先生
②研究協議
③情報交換
- ◇1月22日 教育研究会英語部会
会 場：大島町立第一中学校
①本年度の反省と来年度の課題協議
②情報交換
(第二中学校主幹教諭 吉本洋人 記)

八 丈 町

I. 研究主題

「コミュニケーション能力を活用できる
児童・生徒の育成」～小中一貫教育を
意識した指導の工夫～

II. 活動の経過

◇5月8日 第1回部会

研究主題、活動計画、組織作り

◇7月9日 第2回部会

①研究授業

会 場：大賀郷中学校

対 象：第1学年

授業者：山本 力 主任教諭

②協議

③情報交換

◇2学期 英検IBAテスト実施

◇11月20日 第3回部会

①研究授業

会 場：三根小学校

対 象：第6学年

授業者：Christopher Stempel ALT

谷口 由嘉子 主任教諭

小泉 国広 教諭

エマール フランソワ夏樹 教諭

②協議

③情報交換

◇1月15日 第4回部会

①研究授業

会 場：三原小学校

対 象：小学校5年生

授業者：富宅 剛太 主任教諭

峯重 透 教諭

②協議

③年度末反省・まとめ

④情報交換

(大賀郷中学校主任教諭 山本力 記)

令和元年度 中英研事業報告

1. 4月22日（月）役員会
於：武蔵野市立第五中学校
 - ①役員組織等の確認
 - ②年間事業計画の検討
 - ③中英研定期総会に向けて
 - ④役員会の日程について
 - ⑤関ブロ東京大会について
 - ⑥全英連三重大会について
2. 5月9日（木）定期総会・懇親会
於：武蔵野市立第五中学校
 - ①30年度事業報告・決算報告
 - ②30年度会計監査報告
 - ③新役員の承認
 - ④元年度行動目標の承認
 - ⑤元年度事業計画・予算の承認
 - ◎講演会
演 題 「新学習指導要領の全面実施に向けて
～英語の評価について～」
講 師：東京都教職員研修センター
研修部授業力向上課
統括指導主事
森田 剛 先生
3. 6月13日（木）役員会
於：武蔵野市立第五中学校
 - ①各部主催のワークショップの日程
及び内容等について
 - ②中英研HPについて
 - ③総会・囲む会について
 - ④関ブロ東京大会について
4. 6月28日（金）関ブロ理事研修会
於：オリンピックセンター
・大会運営について
・各県との情報交換
5. 8月22日（木）役員会
 - ・都中教研総会の報告
 - ・各部夏期ワークショップの確認
 - ・地区幹事会の確認
 - ・関ブロ東京大会理事会について
 - ・関ブロ東京大会について
 - ・全英連三重大会について
 - ・全英連東京大会について
6. 7月31日（水）プロジェクトチーム部研修会
於：豊島区立明豊中学校
講 師：飯沼 美千代
(練馬区立大泉中学校)
原田 博子
(文京区立第十中学校)
太田 洋 先生
(東京家政大学教授)
7. 第17回研究部ワークショップ
(1) 8月6日（火）
於：大田区立志茂田中学校
講 師：橋本 晋作
(葛飾区立中川中学校)
一ノ瀬 麻子
(港区立六本木中学校)
原田 博子
(文京区立第十中学校)
島田 卓
(足立区立入谷南中学校)
伊地知 義信
(豊島区立千登世橋中学校)
- (2) 8月20日（火）
於：品川区立荏原第六中学校
講 師：森沢 俊彦
(品川区立荏原第五中学校)
岡崎 伸一
(品川区立荏原第六中学校)
高杉 達也
(都立小石川中等教育学校)
8. 8月20日（火）夏期ワークショップ（調査部主催）
於：千代田区立九段中等教育学校
主 題 「『聞くこと』のテストづくり」

- 講師：工藤 洋路 先生
(玉川大学准教授)
9. 10月10日(木) 役員会
於：オリンピックセンター
- ① 関ブロ東京大会の運営
② 各部会研究発表会について
10. 10月25日(金) 役員会
- ① 各部の運営について
② 中英研HPについて
③ 英語学芸大会について
④ 関ブロ東京大会について
11. 10月11日(金) 第2回研修会
第59回大都市公立中学校英語
教育研究連絡協議会京都市大会
出席者：会長、佐藤副会長
12. 10月15日(火)
「都中英研だより」第73号発行
13. 11月8日(金) 9日(土)
第69回全国英語研究大会三重大会
14. 11月14日(木) 関ブロ理事研修会
於：オリンピックセンター
- ① 大会運営について
② 各県との情報交換
③ 小中連携について
④ 会計
15. 第43回関東甲信地区
英語教育研究協議会 東京大会
於：オリンピックセンター
- 基調提案
伊地知 義信
(豊島区立千登世橋中学校)
- 記念講演
木村 松雄 先生
(青山学院大学教授)
- 公開授業者
岡崎 伸一
(品川区立荏原第六中学校)
助言者：大田 洋 先生
(東京家政大学教授)
- 第1分科会発表者
東京都中学校英語教育研究会
- 研究部
助言者：大田 洋 先生
(東京家政大学教授)
- 第2分科会発表者
東京都中学校英語教育研究会
調査部
荒川 高広
(千代田区立九段中等教育学校)
加藤 真由子
(調布市立第五中学校)
16. 12月1日(日)
「第72回英語学芸大会」
於：豊島区立千登世橋中学校
17. 1月24日(金) 役員会
於：武蔵野市立第五中学校
- ① 関ブロ東京大会報告
② 英語学芸大会報告
③ 研究部研究発表会について
④ 授業力アップ研修会について
⑤ 会報原稿執筆依頼について
19. 1月16日(木)
令和元年度東京都教職員研修センター
教育課題研究発表会での展示発表
20. 2月21日(金) 中英研研究部発表会
於：江東区立第四砂町中学校
研究発表：「語いと英語教育(43)」
19. 3月9日(月) 役員会
於：武蔵野市立第五中学校
- ① 研究部発表会報告
② 次年度組織、活動計画について
③ 関ブロ東京大会について
④ 全英連東京大会について
21. 3月 役員会(予定)
於：未定
- ① 研究部発表会報告
② 令和2年度役員人事について
③ 関ブロ山梨大会について
④ 次年度総会について
⑤ 情報交換
22. 3月中旬「中英研会報」発行
(副会長 遠藤 哲也 記)

東京都中学校英語教育研究会会則

第1章 総 則

- 第1条 本会は東京都中学校英語教育研究会と称する。
第2条 本会の事務所は会長指定の経理部長在籍校の所在地に置く。
第3条 本会は東京都中学校の英語教育関係者を会員とする。

第2章 目的及び事業

- 第4条 本会は中学校英語教育に関する事項を研究し、会員の識見の向上に努めると共に、英語教育の振興を図ることを目的とする。
第5条 本会は前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
1. 各種研修会の開催（研修会、発表会、講演会等）
2. 調査活動（コミュニケーションテストの作成とその分析、調査活動等）
3. 研究活動（英語教育に関わる基礎的かつ実践的な課題等）
4. 各種英語教育団体との連絡
5. 機関誌発行、本会の目的達成に必要な事業

第3章 役員及び幹事

- 第6条 本会には次の役員および幹事をおく。
1. 会長1名
2. 副会長若干名
3. 部長各部ごと1名
4. 副部長各部ごと若干名
5. 会計監査2～3名
6. 幹事各区、市ごとに1名
第7条 役員を選出は次のとおりとする。
1. 会長・副会長は役員会の推薦により、総会の承認を得なければならない。
2. 部長・副部長は役員会の推薦により、会長が委嘱する。
3. 会計監査は役員会の推薦により、会長が委嘱する。
第8条 役員の仕事は次のとおりとする。
1. 会長は本会を代表し、会務を総括する。
2. 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行すると共に、各部を分担する。
3. 部長は担当副会長と協議の上、部会を招集し、会務を執行する。
4. 幹事は本部と各地区との連絡にあたる。
5. 事務局は総務部が担当し、事務局長は総務部長があたる。
6. 会計監査は会計の監査を行い、その結果を総会に報告する。

第9条 役員の任期は1年とする。ただし再任を妨げない。

第10条 本会に相談役、参与及び顧問をおくことができる。

1. 相談役はOB会長及び副会長より、参与は現職校長より役員会の推薦により会長が委嘱する。
2. 顧問は英語科出身の指導主事より会長が委嘱する。

第4章 会 議

第11条 会議は次のとおりとする。

1. 総 会

毎年1回会長が招集し、会務の報告、役員的人事、予算、決算等を審議し、決定する。ただし、必要がある場合は臨時に開くことができる。

2. 役員会

会長・副会長・部長をもって構成し、必要に応じて副部長・会計監査を加え、会長の諮問機関とする。

3. 幹事会

役員・幹事をもって構成し、年1回以上例会を開き、会務を執行する。

4. 部 会

[総務部] 庶務・会計・渉外及び他部に属さない事項の処理

[事業部] 会の年間計画・英語学芸会・研修会、その他会長より委嘱された事業の立案・計画・推進

[調査部] コミュニケーションテスト及び英語教育に関する調査の実施

[研究部] 語彙指導などの研究活動とその普及のための広報活動、研究発表会および公開授業の開催

[出版部] 中英研だより・会報などの発行

[プロジェクト・チーム部] 英語教育に関わる今日のかつ実践的な課題についての研究の推進

第5章 会 計

第12条 本会の会費は東京都中学校教育研究会よりの交付金をもってあてる。

第13条 本会の経費は会費およびその他の収入による。

第14条 本会の予算・決算は総会の承認を得なければならない。

第15条 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第6章 付 則

第16条 本会則は昭和60年4月1日より実施する。

第17条 本会則の変更は総会の承認を得なければならない。

第18条 細則は幹事会で定めることができる。

※改定 第5条2、3及び第11条4は平成17年5月19日より実施する。

※第2条及び第16条は平成30年5月10日より実施する。

令和元年度 東京都中学校英語教育研究会役員名簿

役名	氏名	所属校
会長	刀根 武史	武蔵野市立第五中学校
副会長	遠藤 哲也	葛飾区立水元中学校
〃	佐藤 ひろみ	八王子市立松が谷中学校
〃	平岡 栄一	葛飾区立亀有中学校
〃	難波 浩明	足立区立第十四中学校
〃	田谷 至克	大田区立貝塚中学校
〃	柳 歆子	大田区立馬込中学校
〃	斉藤 節子	板橋区立志村第二中学校
担当副会長 兼総務部長	遠藤 哲也	葛飾区立水元中学校
経理部長	佐藤 ひろみ	八王子市立松が谷中学校
総務副部長	田中 誠一郎	三鷹市立第六中学校
〃	星 正行	足立区立入谷南中学校
部員	佐々木 昭央	目黒区立目黒第九中学校
〃	新野 美紀	練馬区立大泉桜学園中学校
〃	長尾 諭	大田区立石川台中学校
〃	赤田 洋一	江東区立大島中学校
〃	米岡 利昌	葛飾区立水元中学校
〃	小林 和代	葛飾区立水元中学校
〃	内藤 美城子	葛飾区立中川中学校
〃	赤尾 章子	葛飾区立中川中学校
〃	池田 美咲	葛飾区立水元中学校
担当副会長	難波 浩明	足立区立第十四中学校
調査部長	大森 博	練馬区立中村中学校
副部長	市川 拓治	福生市立福生第二中学校
〃	荒川 高広	千代田区立九段中等教育学校
部員	相澤 雄介	練馬区立光が丘第三中学校
〃	安部 智秀	練馬区立大泉中学校
〃	大木田 陽子	文京区立茗台中学校
〃	大澤 陽子	世田谷区立駒沢中学校
〃	大竹 希依子	八王子市立長房中学校
〃	加藤 真由子	調布市立第五中学校
〃	上水 謙治	小平市立小平第五中学校
〃	樫野 真弓	中野区立第二中学校

役名	氏名	所属校
部員	木村弘恵	品川区立浜川中学校
"	斎藤基	日野市立日野第三中学校
"	白井靖子	江東区立深川第三中学校
"	柴野泰行	江東区立第二砂町中学校
"	杉本康子	小平市立小平第二中学校
"	鈴木美帆	杉並区立向陽中学校
"	高瀬ひとみ	品川区立鈴ヶ森中学校
"	丹生幸宣	小平市立上水中学校
"	坪内英津子	三鷹市立第三中学校
"	永井剛	日野市立七生中学校
"	野地優子	日野市立日野第一中学校
"	幡野洋子	日野市立日野第四中学校
"	星雄介	西東京市立田無第二中学校
"	前田秋輔	東京都立桜修館中等教育学校
"	松村祐輔	足立区立竹の塚中学校
"	宮崎太樹	八王子市立ひよどり山中学校
"	山下郁子	日野市立大坂上中学校
担当副会長	平岡栄一	葛飾区立亀有中学校
事業部長	横山達也	八王子市立第六中学校
副部長	稲葉高広	大田区立大森第十中学校
"	小山千景	葛飾区立双葉中学校
"	相沢隆二	目黒区立目黒中央中学校
"	大屋剛	足立区立西新井中学校
"	前川卓哉	渋谷区立松濤中学校
部員	米澤登志子	世田谷区立駒留中学校
"	宮野和子	府中市立浅間中学校
"	大竹希依子	中野区立第四中学校
"	亀田洋斉	千代田区立九段中等教育学校
"	川越智子	北区立飛鳥中学校
"	石井誠	渋谷区立松濤中学校
"	才丸光	渋谷区立上原中学校
"	小川史哲	八王子市立別所中学校
担当副会長	田谷至克	大田区立貝塚中学校

役名	氏名	所属校
研究部長	伊地知 義 信	豊島区立千登世橋中学校
副部長	原 田 博 子	文京区立第十中学校
”	溪 内 明	文京区立本郷台中学校
”	上 尾 栄美子	足立区立第五中学校
”	前 田 宏 美	葛飾区立四ツ木中学校
部 員	岡 崎 伸 一	品川区立荏原第六中学校
”	中 川 智 子	大田区立志茂田中学校
”	江 濱 悦 子	大田区立大森第四中学校
”	壽 原 友理子	東京都立両国高等学校附属中学校
”	島 田 朋 美	荒川区立第四中学校
”	水 嶋 諒	江東区立第四砂町中学校
”	高 杉 達 也	東京都立小石川中等教育学校
”	太 田 裕 也	品川区立鈴ヶ森中学校
”	佐 藤 優	多摩市立鶴牧中学校
”	古 川 悟	世田谷区立太子堂中学校
”	藤 野 康 明	板橋区立志村第三中学校
”	堀 田 奈梨子	大田区立馬込東中学校
”	三 上 健二郎	大田区立出雲中学校
”	森 沢 俊 彦	品川区立荏原第五中学校
”	島 田 拓	足立区立入谷南中学校
”	柏 麻里恵	葛飾区立水元中学校
”	大 島 良 一	葛飾区立葛美中学校
”	町 田 恵理子	東京都立立川国際中等教育学校
”	多 田 翔	葛飾区立桜道中学校
”	福 島 恵 子	豊島区立西巢鴨中学校
”	一ノ瀬 麻 子	港区立六本木中学校
”	能 美 真 弓	荒川区立第三中学校
”	橋 本 晋 作	葛飾区立中川中学校
”	岡 大 佑	足立区立江南中学校
担当副会長	柳 歆 子	大田区立馬込中学校
出版部長	今 本 由美子	練馬区立大泉西中学校
副部長	溝 口 千 里	練馬区立旭丘中学校
”	小 柳 守 生	足立区立西新井中学校

役名	氏名	所属校
副部長	當麻忠幸	西東京市立ひばりヶ丘中学校
部員	兼子容子	葛飾区立四ツ木中学校
〃	中井正弘	小平市立小平第一中学校
〃	福田貴音	台東区立御徒町台東中学校
〃	鈴木咲子	清瀬市立清瀬第二中学校
〃	岩田歩	調布市立第五中学校
〃	和田圭史	羽村市立羽村第三中学校
〃	柳絵未	千代田区立九段中等教育学校
〃	辻賢哲	青ヶ島村立青ヶ島中学校
〃	深山朋子	練馬区立北町中学校
担当副会長	斉藤節子	板橋区立志村第二中学校
P T 部長	佐藤順一	墨田区立両国中学校
部員	原田博子	文京区立第十中学校
〃	上尾栄美子	足立区立第五中学校
〃	角田幸彦	足立区立入谷中学校
〃	河野珠希	台東区立柏葉中学校
〃	堀恭子	豊島区立千川中学校
〃	渡邊英哲	稲城市立稲城第四中学校
〃	小林博子	豊島区立明豊中学校
〃	飯沼美千代	練馬区立大泉中学校
〃	田中佳奈	連雀学園三鷹市立第一中学校
〃	川戸萌美	連雀学園三鷹市立第一中学校
〃	渡邊良亮	世田谷区立喜多見中学校
〃	本田耕大	墨田区立文花中学校
小中連携	吉村達之	三鷹の森学園三鷹市立高山小学校
〃	柳歆子	大田区立馬込中学校
会計監査	中島理智	昭島市立昭和中学校
〃	吉川篤	町田市立町田第二中学校
〃	柏木圭子	足立区立第六中学校

あ と が き

ここに、令和元年度「中英研会報」第78号をお届けいたします。

本誌の発行に際しては、明海大学教職課程センター教授 石鍋 浩 先生をはじめ、多くのご執筆者の皆様にご協力いただきましたことに心から御礼申し上げます。

また、「地区活動状況」ページの作成にあたっては、各地区幹事の先生を中心に、ご多用の中、原稿の提出にご協力いただきありがとうございました。やりとりを進める中で、それぞれの地区の事情やご苦勞を伺うこともございました。他地区の実践など、本誌を会員の皆様や各地区の活動の参考としていただければ幸いです。

さて、次期学習指導要領の全面実施まで、いよいよあと1年となりました。この会報が、都内各中学校の英語科教員の情報共有の場となり、英語科教員相互の連携、都の中学校英語教育の一層の充実、発展のお役に立てることを願っております。

最後になりましたが、本誌の発行にあたり、ご支援を賜りました多くの先生方に感謝いたしますとともに、会員の皆様の一層のご活躍をお祈りいたします。

(都中英研出版部長 今本 由美子)

都中英研会報 第78号

令和2年2月28日印刷
令和2年2月28日発行

発行者 東京都中学校英語教育研究会

代表者 刀根 武史

発行所 東京都中学校英語教育研究会
東京都武蔵野市立第五中学校
東京都武蔵野市関前2-10-20
TEL (0422) 52-0421

印刷所 (株) オフィス・サンライズ
東京都大田区鵜の木2-6-5
TEL (03) 5741-3146